

子ども学の源流を次世代につなぐ

# 幼児の教育

[特集] 保育の「根本考察」にチャレンジ!  
保育者は変わるけど変わらない?

[実践] こども園をつくる  
保育を支える連携と同僚性

[探究] 投稿論文(研究紹介)  
中国の4幼児園を訪問して

2018

春

since 1901

第117巻 第2号

お茶の水女子大学  
『幼児の教育』編集委員会





新しい春。ドキドキする。  
「よく来たね。一緒だよ」  
木や風がささやく。

写真

子どもの情景 1

目次まご

幼稚の園 2

特集

保育の「根本考察」にチャレンジ！ 5

保育者は変わるけど変わらない？ 4

《座談会 2018》

20代の保育者だった頃を振り返る 5

《アーカイブズ》

座談会

「新年を迎えてしたいこといいたいこと

— われら20代 —

— 『幼児の教育』第七十三巻第一号  
(一九七四年)から — 18

告知

「幼児の教育」ここが新しくなります。 22

実践

私の保育ノート

「なりたい自分になりたい」 佐々木麻美 24

心が開かれるとき—あるクラスでの出会いから

西隆太郎 28

こども園をつくる

— 文京区立お茶の水女子大学こども園の

記録 — Vol.8

保育を支える連携と同僚性

— シフト勤務制を生かす工夫から —

森永路子 32

連載

倉橋惣三との対話 ⑤

「森の幼稚園」という理想 (その3)

浜口順子 38

表紙の図柄は、お茶の水女子大学附属幼稚園内にある  
スタンドグラスの模様をデザイン化したものです。

## 目次

### 視点

幼児の自然体験に寄り添って 余語晶子

42

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型

認定こども園教育・保育要領の改訂（一定）と

これからの保育 松島のり子

46

### 文化

園文化をデザインする ⑤

春を見つめる

〜いつものお庭や散歩道で

中村絃子

50

### 探究

中国（蘭州、西寧、北京）の4幼稚園を訪問して

―ユニバーサルな保育はあるのか―

浜口順子・小玉亮子・盧中潔

62

### 子ども学のひろば

イベント・メディア情報・

読者投稿・編集後記 他

63

## まど

## 幼稚園の園

この号から本誌にいくつかの変化があり、巻末に横書きの論文コーナーを設けたこともその一つだ。投稿規定（本誌23ページに掲載をご参照の上、ふるって投稿していただきたい。

今回はまだ募集前のため、中国訪問記を掲載した。現在の中国では、三〜五歳の子どものための施設を「幼児園」という。幼稚園とは「じ」と「ち」の一字の違いではあるが、されどその一字なのである。日本の幼稚園は発定一四二年目を迎え、倉橋惣三らがフレibel会を「日本幼稚園協会」と改称してからちょうど百年。よう「ち」えんの響きは日本の保育史上、意味深い。

幼稚園よりも一足先、一八七五年、京都府柳池小学校に付設されたのは「幼稚遊嬉場」だった。翌年、桑田親五が訳出したロンジ夫妻著の「幼稚園」はオサナゴノソノと読む。当時、幼児のことを「幼稚」と言ったのである。現代の「幼稚な」という語には侮蔑的な意味合いもあるが、幼稚園とは本来「幼児たちの園」であり、フレibelが感動を込めて命名した教育施設「キンダーガルテン」の直訳なのだ。今号から本誌の表紙に「日本幼稚園協会」と記されないが、幼稚園に込められた先人の思いは謙虚に継承していきたい。（浜口）

特集

# 保育の「根本考察」

## にチャレンジ！ 5

今から約1世紀前、倉橋惣三が本誌にこう書いた。「根本考察が足りない。根本考察が足りないから、問題がいつでも枝葉の處で動いて居る。(中略)——我國の幼稚園教育界は、こんな風にして一年々々過ぎて居るのではあるまいか。」(「斯くてまた暮れゆく」大正5年12月)……倉橋がもし今生きていたら、現代の幼児教育界をどう見るだろう。倉橋先生、私たち根本考察できていますか？

# 保育者は変わるけど 変わらない？

ベテラン保育者が3、40年前の新米の頃から現在までを振り返る本音トークになりました。若い頃の悩みの真剣さ、その後出会った困難、そして今の希望……？ 保育者の成長について考えます。

## CONTENTS

座談会 2018

20代の保育者だった頃を振り返る

アーカイブズ

座談会「新年を迎えて したいこと  
いいたいこと —われら20代—」

—『幼児の教育』第73巻第1号(1974年)から—

# 座談会 2018

## 20代の保育者だった頃を 振り返る

入江礼子  
向山陽子  
飯利美知子  
嶺村法子  
(聞き手・浜口順子)

浜口 まずは、自己紹介と、四十四年前の座談会（この後の18〜21ページに一部転載）を読まれての感想や印象を一緒に。それでは当事の座談会に参加されているお二人から。

### 自己紹介と感想

入江 幼稚園の経験は、大学院のときに一年、向山さんと同じ私立幼稚園に就職し、後はずっと下って、五十歳から五十五歳まで大学の

付属園の園長職を五年です。その間は、主婦や大学教員など。これを読んで、自分が話した部分を探すのが大変でした。みんな幼稚園の先生をしているのだから、もつと子どものこととかいっぱい出てきそうなのに、そうじゃなくてずいぶん自分のことを語っているなと思いました。

向山 私は、大学を卒業してから、私立幼稚園で教諭、園長として、約三十六年。保育者養成校に非常勤で約二十五年。オランダでは、日本語幼稚園を手伝いながら、今でいう子育て支援グループを立ち上げました。現在は、養成校非常勤講師と某大学大学院博士課程に在籍して、保育史にはまっています。四十四年前当時は……子どもと一緒にいることの魅力をすっごく感じながら、のめり込んでいく怖さも感じていて、先輩方が現場を語る姿を不思議な感じで聴いていたのを覚えています。

入江 自意識過剰かもしれない。自分のこと

入江礼子（共立女子大学家政学部児童学科教授）  
飯利美知子（公立幼稚園特別支援教育補佐員）

向山陽子（元私立幼稚園園長、大学非常勤講師、学生）  
嶺村法子（公立幼稚園園長）

ばかり考えていた。教師という意識もほとんどなく、子どもと一緒にいる人という感じだったなど思い出しました。

**嶺村** 私は、大学院を出て、国立の盲学校幼稚部と都立の特別支援学校高等部で、産育休代替えとして一年ずつ勤務した後、平成元年から公立幼稚園で担任を十六年間やりました。そのうちの二年間は育休を取っているんですけど。その後、三年刻みで主任、教頭を経験し、園長は七年目になります。

**向山** そういえば私、ブランクが十年あります。

**入江** 私もブランクは十五年くらい。でもその間、保育と一緒に学んだ仲間と連絡を取りあっていました。

**浜口** やはり女性は、キャリアが複雑になりやすいですね。

**嶺村** 昔の座談会で、何事かに一生命取り組むとか、先ほども、のめり込むのが怖かつ

たというお話がありましたけど、今、若手を育成する立場になって、むしろ無我夢中に髪振り乱して、なりふり構わずに、がむしゃらにやろうよ保育、と言っている自分がいます。子どもと一緒にここで生活をするんだよ、という話をしたり。葛藤があつて当然の二十代なのかなあ、と。

先日、三十周年の同期会があつて、新卒二か月目で書いたレポートをコピーして持ってきてくれた人がいて。それを読んだら、昨日書いたのになつて思うぐらい、ベースにある考え方は変わっていないくらいびっくりしました。だから、当時の方々は、保育を志した頃とどういうふうに変わったのか、変わっていないのが、知りたい気がします。

**飯利** 私は短大を出て、千葉の私立幼稚園で八年というところから始まって、その後、子育てでちょっと抜けたり、千葉から茨城に引っ越してまた復帰したりして、ざっくり数え



ると、夫にはジブシーみたいと言われるんですけど、今の園で、幼稚園と保育園を八つ渡り歩いたという感じなんです。というのは、最初の幼稚園が遊びを大事にする保育だったのでとても楽しくやれたんですけれども、引越した街ではそういう保育の場がなくて、「ここじゃない、ここじゃない」と、そういう思いで渡り歩きました。今は、公立幼稚園の補佐員として特別支援児の担当をして三年目になります。座談会記事を読んで印象的だったのは、「幼稚園で生きる」というところ。それから、つらくなって辞めようかと思っただけども、それを乗り越えたときの楽しさがあったところ。私もそういうものがあったから、いまだにこの世界にいるのかなあとあらためて感じた、というのが感想です。

## 結婚か仕事か？

浜口 当事者の方々と後から読んだ方とは

印象が違うようですね。

**入江** ここには書かれてないんですけど、最初の一年というのはすべての基礎になっていて、今でもその頃の記録を読むと、本質は何も変わってないと思います。

もちろん、若かったし、結婚する前で、私の場合は、結婚しなきゃとか、できるんだらうかとか、そういうものも一緒にありながらでした。子どもといると面白かったけれど、幼稚園の先生としては失格かなと。お遊戯会で、クラスで浦島太郎をやることになったんです。一年目で保育技術も何もあったものではなかったで、結果的に無理にやらせるみたいになっちゃって。それは自分が保育で大切にしていたことと真反対だったわけです。それで幼稚園に行けなくなったの。



▲入江礼子氏

十日間くらい休んで、お遊戯会は欠席というありさまでした。

## 結婚、子育て、ブランク

**浜口** 当時の二十代の女性の結婚・子育てへの思いは、今と違うかも。

**入江** あまり仕事って思わなかったよね。

**向山** 私も夫の転勤について行ったり。仕事するしないも、夫と子どもで決まってくる世代なのかな？

**飯利** 私、入江さんと六歳くらい違いますね？

私は結婚とか考えないで、できることならこの道でどっぷり生きようかと思っていたときもありました。結局は結婚したんですけれど、そういう人がちらほら出てきていた。三年たったとき、この仕事に向いてないと思つて、子どもたちのためにも辞めたほうがいいなんて考えたこともありました。でも、それを越えたらだんだん面白くなってきて、五年くら

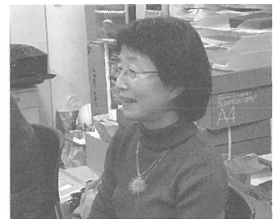
いこのときに、この道でいいのかな、という感じで。

**浜口** お子さんができて辞めた？

**飯利** 年子で二人。子どもは三人になって、また

保育の場に出るまでに、コンビニで働いたり、発掘の調査員をしたり、役場のレセプト処理をやったりしたんですけれど、子どもと一緒に過ごす保育の仕事が忘れられなくて。末の子が小学校三年になったとき、もう一度フルタイムで働けるかなと思つて、保育園に入つて、また始めました。

**向山** 私にとつても一、二年目は根っこになつています。年中組四十人の中、障害のあるお子さんが六人。「統合保育」と、山と海で育てる方針。毎日のように海や山へ行き、がけをはい登ると海が見える。私は子どもも時代に遊んで育つてないから、初体験ばかり。一年



▲飯利美知子氏

で辞めるんですけど、自然体験と一人ひとりの子どもへの視点は私の基本になった。次の園でも、蛇口から流れる水を見つめて過ごすお子さんの担当になって、水は面白いと頭ではわかるけれど、何をすればよいのかわからない。傍にいるしかなかった。ブランク中に恩師や先輩方に導かれた保健所心理相談員、国立盲学校幼稚部産休代替教諭、『幼児の教育』の編集担当、音楽会司会の体験が、根っこに上書きされて園長職の力になりました。

## 夏季休暇

**浜口** 座談会では、夏休みが大きな区切りになっています。昔は、子どもと同様、長い夏休みが先生にもあったんですね。

**向山** 変わる頃のこと、覚えてます。国公立は夏休みがなくなるんだ、私立はどうしようって。

**嶺村** 公立幼稚園では、一九九〇年代に第二・

第四土曜日が休みになったとき、出勤する土曜日が、年に十日程度はありました。だから、それを夏季休業中にまとめ取りして、プラス五日間の夏季休暇を取って、さらに年休を使えば、ある程度まとまった休みが取れていた。自宅研修も認められていたので、自宅で教材研究をしたり、外部の研修を受けに行ったり。座談会の中にも、幼稚園のことを忘れて、子どもの名前まで忘れて、というくだけりがありますが、私も、子どもが小さいときは、毎年帰省して田舎でのんびりしていた。夏休みの変化は大きいですね。

**向山** 夏季休業中を含めて、預かり保育に補助金がついたのね。私立幼稚園の園長として、先生方の夏休みの確保と預かり保育の運営の決断に勇気がいったと覚えています。

**飯利** 今は幼稚園が預かり保育をしていないと子どもが来ない時代です。夏休み中も預かってますよね。お盆しか休みがなくて。私が

若い頃は、すつぱり休めていた。今は私立幼稚園もそんな感じですよ。

## メリハリ、外の世界

**嶺村** 以前は、知らず知らずにメリハリをつけられるような仕組みがあつたように思う。今は自分でメリハリをつけないと、生活も仕事もズルズルしてしまうのかな、と。子どもがけがをしないように見なければいい、一生懸命やつてもお給料は同じだから、というのは困るんだけど、どつぱり仕事だけというの。

**向山** 自分からエネルギーをもらいに行く場が外にあつたり、自分たちでつくつたりして、「ねばならぬ」時間と使い分けてたわね。

**嶺村** 今は、100%注ぎ込まないと追いつかないぐらいの「ねばならない」研修がある。学ぶ機会が保障されていることはありがたいけれど、日々は日々であるし、夏は夏でま

めてあるし。緩急とかメリハリとか、一日の保育を組み立てるといふのは、自分の計画に子どもを入れ込むことではなく、子どもとの生活を一緒につくっていくことですね。若かりし頃、私も難しかったと思うんですけど。自分で、夏はこの研究会に行こうとか、リフレッシュしようとか、一日一年を組み立てるっていうか。そういうことを自分でマネジメントする力って、仕事も生活もつながっているような気がします。

**浜口** 小学校は、始めから授業で区切りがついていきますものね。組み立てていっても四十五分。幼稚園や保育園は、長いから。メリハリがわかってくるのは、あれはキャリアアンの？ 一年目はとても無理？

**嶺村** キャーとか、ワーとか言つてたような気がするけど。今の人はそうでもない。淡々と落ち着いてやっていて。

**飯利** そうそう。

**嶺村** 心の中では動揺したり焦ったりしているのかもしれないけど、淡々とやっているように見える。自分の生きざま、何を大事にしているか、どんなふう子どもたちと一緒に生活をつくっていきたいと思っっているかは、そのまま保育に出ちゃうから、淡々と保育しているのって何なのか、どうアドバイスすればいいのか難しい。だからといってキャリアを重ねればいいのかというわけではなく、若くてもできちゃう人はできちゃうし。その不思議さを感じますよね。

**飯利** 若い人たちを目の前にして、老婆心としてなんとかしてあげたいと思うんです。保育は苦しいけれど楽しいこともあるんだよとか、こういうところを見るといいとか。でも、具体的なことをどうやって伝えたらいいのか悩ましい。

### 最近の学生は担任を持ちたがらない

**向山** 誰かに助けてもらおうとは思わなかった。先輩からの一言がうれしく、力になったことはあるけど、私の保育の悩みは他の人にはわかんないって思ってたかな。

**入江** 自分の責任とまではいかなかったも、自分でやるものと思っていたから。今、幼稚園で一人で担任するの、怖いっていう学生が多いですよ。

**飯利** だから保育園がいいと思うのですね。  
**嶺村** それが楽しいって言うのが、どうしてわからないのかなあ。

**入江** 担任やりたいたって思ってたわよね。

**向山** 園長を辞めて三歳の担任をしたいと言って、大笑いされた。今でも担任したい。(笑)



入江 実習では、こういうふうにしたいなと思っても先生の言う通りじゃない？ 絶対担任を持ちたいと思った。

浜口 なんて、やりたくないって思うのかしら？

入江 大変だからっていうのと、それからもしかしたら子どもが面白いつて思っていないのかな。

嶺村 実習体験がよくないのかも。厳しく指導され過ぎると立ち直れないことに。

向山 特に幼稚園、多いつて聞きます。

嶺村 幼稚園実習に行つて、やっぱり幼稚園つて楽しいなつて。私も子どもと一緒に生活したいと思つて帰るような、そういう実習じゃないと。

入江 そうよね。そうあつてほしいです。

嶺村 でも、学校で学んでくる保育の基本と、実際に幼稚園でやつている保育の形態や生活がかけ離れ過ぎて、そのギャップに自分が苦

しんで、だつたらもう、つて感じになるんじゃないですか。

### 一年目の壁

浜口 学校で学んできたことが、すぐ、一年目でどこか横に行つち

やつて、ということもあるんですね。

嶺村 園のやり方になじんでいくのに精いっぱい。思ひはあつても実践がついていかないから、求められるものとのギャップが埋められない感じ。

入江 浦島太郎の劇のときも、他の先生に助けてもらうという考えが浮かばなかつた。担任だから一人でやらなきゃつて。

嶺村 私も浦島太郎だつた。主任さんが、あなたそこで見てなさいつて。こうやつてやるのよつて。呆然として見てた。





浜口 行事は、一年目には難関のようですね。自分は自分らしくやるぞ、みたいには思えなかつたですか？

向山 ていうか、自分の力量でしかできないわけで、それはとんでもなく未熟で……。

飯利 昔の座談会に、今までは自分が出せてなかつたけど、だんだんと自分らしさで「ありのままとまでいなくても、わりと自分らしくいられる、……」とあつて（本誌18ページ参照）、私もこれが保育の仕事が続ける基かなという感じがするんですよ。一年目は、ちゃんとやらなくちゃという感じで、無我夢

中で。それって自分らしくなかつた。それがあの頃、キリスト教保育の夏の講習とかに行くと、「自分らしく」とか「保育の中で自己表現」とかの言葉があ

ちこちから入ってきて、保育の中で自分を表現していくってすごい仕事だなんて思えた。それで、ああかな……こうかな……とやっていくうちに、すごく保育になじんでいったのかな。ここじゃない、と思いつながら幼稚園や保育園を渡り歩いて、その後今の幼稚園に入ったとき、子どもたちが自分のやりたいことをのびのびとやっている雰囲気、私が開放されたような感じがしてホッとしました。若い先生たちが、そういうふうに思いながらこの仕事ができるといいのですけれど。なかなか、難しいですよ。

### みんなが自分らしさを感じる環境

浜口 園長としては、自分らしくみんなが思える環境ってどうやってつくる？

嶺村 私はやりたいようにやらせてもらってきたように思うけど、今、先生たちにはなかなか「好きなようにしていいよ」とは言えな

い。担任六人のうち四人が本園が初任で、育てなきゃという気持ちがある。

私、一年目に年長を持ったとき、子どもたちと園庭で鬼ごっこをしていて主任さんに褒められたんですよ。年中のときは誘っても走ったりする子たちじゃなかったのに、楽しそうに走っている。「あなた、大したものね」と。他に覚えているのは、先輩たちが土作りをしているところに私が後から歩いて向かっていたら、「そういうときは走るのー」って言われたこと。新採研に出かけて帰ってきたら、せっけん箱がきれいに洗われていて、保育室のレイアウトが変わっていたこと。今でも鮮明によみがえってくるくらいベースになっている。そういうふうにして後進を育てたいなという気持ちはある。だから、その人が得意なことは頼りにしたり任せたりしているけど、製作なんかの場面では、「どうして紙をきちんと折らないかな」とか「この色の組み合わせ、

もつと感性磨こうよ」とか言っちゃうの。言うだけでなくやって見せる。気がついたことはその時に伝えないと忘れちゃって、後で「あーあ」ってことになっちゃうから。それを言ってもらってありがたいと思っているのか、うるさい園長だと思っているのか、今に見ておれ、と思っているのか、皆さんがどう思っているのかわからない。でも私は私のやり方でやるしかないし、その中でその人らしくのびのびとやってほしいと思っているけれど、毎日きゅつと心臓をつかまれるような思いをしている人が、中にはいるかもしれない。

**浜口** 園長という仕事はなかなか厳しそう。向山さんはどうでした？

**向山** 私にとってはやりがい？ でも、昔、園児数二十六名の園の存続をかけた変革のときは、先生方を勢いに巻き込み、「今のあなたは私を知ってるあなたじゃない」と友に諭され、その膝で泣いた（笑）。今なら「改革は急



に、変革はゆつくり」と言えるけど、当時は、子どもたちに申し訳なくて急いでたね。

**浜口** 若い保育者たちから蔭で文句を言われているというようなことは、やはり感じたの？ そういうこともあり、ということ？

**向山** あり、あり。しょうがない。園長は孤独なもの。子どもたちの顔がどんどん変わってきたら、園児数が増えたらわかってくるかな、と思ってた。それぞれの先生の得意を生かすことには努めたつもりだけど、丁寧に育てる余裕はなかった。次の園では少しは成長できたかな？（笑）今、わが子の育ちを報告してくださったり、保育者、研究者、地域の子育て支援の要としてなど、それぞれがその人らしく生き生きとされている姿を見ると、すっこくうれしい。

## 褒めること、叱ること

**向山** 褒めてもらいたいと言われたことがあ

る。認められていることはわかるけど、と。その人のやりたい保育を具体的にサポートしたり、保護者会や外では先生たちを褒めただけ、本人には褒めてない。職人のように見て学べとか、厳しくおおらかにでは通じなかつたかな……。

**飯利** 私の立場から園長先生を見ると、先生たちも子どもと一緒に思う。先生にも、「ずっと見てたよ」とか声をかけてほしい。そんな園長先生と先生の関係も大事かなって。大人同士だとあまり意識されなと思うんだけど、ここで一言あると、この先生、明日につながるかな、先生たちの元気にもなるのかなと思うことがあります。

**嶺村** 週案に励ましたり期待したりする言葉を入れたりはするけど、決定的に足りないんだと思います。褒めるってこと。



▲嶺村法子氏

なるべく意識して「よかったんじゃない」って言うようにしているけど、どうしても、「あのさあ」って言ってしまふ。

**飯利** それも必要ですよね。

**嶺村** 五年十年続けていって、立場が主任や管理職になったときに、若い頃に園長に言われたわよ、ということがどこに残っていいのかわかって。保育の心というか、そういうものをどうやって体現していくかというのは、昔のように、先輩から盗みなさいとか、背中を見て学びなさいとか言わないけれども、やっぱり自分が子どもにかかわる姿とか、私がかかわっていることとか、そういうことから、なんでそこにこだわるのかとか、なんでこんなにガミガミ言うのかというところを、「なんで」というところを聞いてね、と言っている。聞いてくれれば、そうした理由なり根拠なりを答えるから、と。それを感じてほしいなというのはあります。

## 若い人に一言

**浜口** 最後に、まだ二、三年目ぐらいの保育者に、

それぞれお言葉を。(笑)

**向山** 四月一日勤務初日

に、この園のここがおかしいと今思っていることを忘れないでねと言ってきた。三年、五年たったら変えられるかもしれない、それがあなたらしさ、園にとっても宝だからねって。染まっちゃうと軸自体がずれちゃうから、と。

**飯利** 保育の中で、一日に一つでも、気がついたこと、感じたこと、注意されたり失敗したりしたこととか、自分の中にすごく入り込むことがあると思う。そういうことを、大切に丁寧に積み重ねていくことが、先の自分に必ずつながるから、一日一日を積み重ねる保育をしてほしいなと思います。

**嶺村** 本気で遊んでくれる先生が、その子に



▲向山陽子氏

とってうれしい先生だよと言っている。うれしいって感じることを、その子が感じるタイミングでできる、うれしい先生になってね、と。そのためには思いきり一緒に遊ぶこと。指導しようとか教えようとかの前に、まずは汗を流して一緒に遊ぼうよ、って。その中で、子どもが教えてくれることを拾い集め、自分から学んでいくことが大事だし、それを自分の喜びに変えていける人が保育者なんじゃないかなと。

入江 卒業生がいろいろな保育現場に出ています。その学生たちが、今、こんな保育をしたいなって思っていることを忘れないでほしいなって思います。それは保育力もいることだから、すぐには実現できないと思うの。けれど頑張つて、ここでできそうと思つたら少しずつやってみていくとか。自分が大事だなと思つている光のようなことを忘れないでもつていてほしいなと思います。

浜口 若気の至りも大事。

(二〇一七年十一月十日)



(座談会)「新年を迎えて

したいこと いろいろしたいこと

— われら20代 —

井上のりえ、大崎利恵子、大多和檀、河井祥子、川村礼子、別役富美子、前田陽子、松井とし

— 『幼児の教育』第七十三巻第一号

(一九七四年) から —

A (略) どなたか口火を切ってどうぞ……。 (略)

B 私は今、公立の幼稚園に勤めてますけれど、

(略) 学校のことなんかどこかへとんじやったよ  
うな気がします。もちろん現場で、学生時代に習  
ったこともうんと生きているとは思ってますけれ  
どね。 (略) あっという間に今、六年目なんです。

C 本当！ ここまできちゃったか、よね。

\* \* \*

A (略) 幼稚園の先生とか、幼稚園とかっていう  
ことをぬいて、いろいろしたいことかしたいこと、  
はありませんか。 (略)

E (略) 自分の私的な生活と幼稚園の生活を切

りはなしてた自分があった、そうするとおかし  
いことになってたような気がする。 (略)

C 切りはなすと苦しかったの？ (略)

E う……ん、幼稚園で生きられなかったわけ、  
要するに。 (略) 今は、私、相当程度、生きられ  
るっていう実感があるからいられるの。 (略)

C (略) Eさんが、そこで自分が生きられるって  
いうのは、 (略) 自分が出せてないっていうのか、  
自分らしさでもっていられるんじゃないのが、

だんだんと自分が、ありのままとまでいかな  
くても、わりと自分らしくいられる、気安くい  
られる、そういう、そんな感じじゃないかな。

E 気安くいられるから、苦しくてもその苦し  
さが充実したものになってくるっていう感じ。 (略)

F (略) 毎日子どもたちと同じように、今日  
はどうやって生活しようかしらっていう楽しさ  
をもつて幼稚園に行きたいと思うわけね。 (略) 本当は、  
自分の生活と幼稚園の生活っていうのは、輪  
になって回転するわけじゃない？ (略)

C 私、二年目ぐらいの時ね、いやでいやで、幼

園なんかもういやだ、って思ってた大体私と同期の人もそうだったの。顔合わせると、求人欄を見てるっていうの。(略) 夏休み中、ともかく私なんて本当に子どものことなんて忘れちゃってたし……。(略) 九月一日に大掃除で、(略) 何かとつきに名前が出て来ないの。(略) それぐらいなのに、その翌々日が始業式で、子どもたちと会っていると、やっぱり、いいなあ! と思うものがあるわけね。(略) 私、一年目なんか、夏休み前はばててもうだめだーなんて思ってたでしょ? それが夏休みが終わったとたんにごく生き生きしちゃうって、子どもたちとも元氣よく遊んじゃってね。(略) H (略) 自分が生き生きとしたものを出せば、子どもと会っている時に向うも生き生きとしたものを出してくるんじゃないかと思うの。(略) F (略) 私も夏休みは徹底して遊ぶ方だから本当に夜半まで遊ぶわけ。(略) そして今度九月になった時、(略) 子どもと出会った時の何ともいえないうれしさとか楽しさ、それが何かすてきれないものがあると思うんです。(略)

D 私、今も二年でやめようと思ってるけれどね。三年ぐらいいたら、すごい魅力のある職場でしょう? やめられなくなっちゃうんじゃないかっていうことがこわいの。(略) 子どもはすごく可愛いから、きつとやめたって夏季保育にはくるだろうし、秋になって何かあったらくるだろうとかね。(略) G (略) 結局ぬけきれなくなって、幼稚園くさいところがくさくさなくなってわかんなくなっちゃうの。それでそれだけの世界で満足しちゃう。F 幼稚園だけじゃない生活っていうのはいやだと思いの。(略) B 私も一時期あったの、いやでいやでぞーっとするっていう……。でも今は、結婚しても、子どもができて、それこそ足腰たたなくなるまで幼児教育ってものをやりたいなって思ってるの。(略) C (略) 保育と自分と、もう一つつなぐものは何かっていうと、せまくいえば日本、大きいいえば世界だし、それがどういうふうに動いているかによって自分というものもあるし、日本の幼児教育もあると思うの。この三つを、どういうふうにしてって

考えるとしても中心は自分なの。この中心になる自分がどうして生きて行くかっていうところ、夏休みはそこが課題で、たえずそこをつきつけられて、子どもの問題で困った問題、なんていわれても出てこなかったわけ。(略) 二学期になって子どものようすを見てたり、こんな子どもたちにしたくないなんて考えてると、グループを作ってこんなことをやりたいなんて考えるようになるの。そうすると、実際にどうしたらいいだろうか、去年はどうだったろうかとか、たちまち日々の保育の細かいことが、ペアツと頭にのぼってくるの。(略)

\* \* \*

A (略) 楽しいっていうのは？

H 私は、理くつ抜きに笑えるっていうことが大人じゃ出てこない、それが出てくるっていうところが楽しい。(略) 自分が何か心にかけて一生懸命やっていると、必ず見えてくるっていう時があるのね。その時に、はっと自分の存在を感じるそういう楽しさもあると思うの。(略)

B (略) 子どもにもっとこういうことをしてほし

い、つかませたいとか、ちょっと楽しいって言う言葉とは違うんだな。だから、楽しい園生活、楽しい私と子どもの生活、じゃなくて、もっときびしいの。(略)

D 自分をぶつけるわけでしょう。ぶつけるっていうことはすごく苦しいことで、楽しいこともあるけれど苦しい時間というのが大きいわけ。(略) でも先に何かあると思えるの。(略)

F (略) 去年人がもったクラスを私があつたの。(略) それで一つ一つやるたびに、そうじゃなかったよとか、子どもにとってはささいなことなんだけれど、こっちにしてみれば考えてやったことの反応がそれだとカチンとくるわけよ。(略) より所はどこにもなくて自分にきびしく返ってくるわけね。(略) それは誰も教えてくれないし、教えてくれても技法だけだし、結局自分しかないっていうそういうつらさがあるって、だけどその中で自分が生み出していくわけじゃない？(略) 子どもと接して返ってきた喜びが好きなの。だからつらくても何とかして、自分のやり方を生み出すわ

けね。(略)でも今もっている苦しみをのりこえた時には、また楽しさがあると思うの。やっぱりそれが好きで、それが私の生き方だと思う。(略)  
D(略)この辺の底の方で喜べる喜び、というよ  
うなものはやっぱり他の仕事じゃだめだなんて思  
うの。(略)

\* \* \*

A(略)一言ずつ最後に、そして文句なく今あな  
たがしたいことをつけ加えて回してください。(略)

G(略)あと戻りはできないし、だからこれから  
私はこうやっていかなくちやいけないのになって、  
わからないながら、私としての道をさがさなければ  
って思っています。したいこともこれです。

F(略)やっぱり皆同じなんだなって(略)した  
いことは、大和路と木曾路を合わせて歩きたい!!

D(略)したいこと。遊べる人間、女になりたい  
と思うの。それから幼稚園だけが子どもにいる所  
じゃないって感じがすごくあるの。(略)

B(略)六年目で、私もどの辺からずっとこれを  
続けるっていう気になったのか、その気持ちを整

理しなきゃ(略)やりたいことは、土曜日の午後だ  
し、ブラブラと歩きたいなあと思ってるの。

E(略)やりたいことをやりたい!私、今苦しい  
っていったけれどすごい充実感もあるの。それは  
なぜかっていうと、自分が何も考えないでぶつ  
けて返ってきたものだから、それを大切にしたい(略)

H(略)スキーを(略)リラックスしてどんな  
すべれるようになりたいな(略)やっぱり悩むと  
ころは、新卒の人と変わらないなって感じ。そして  
これからも悩みながらまたいくんじゃないかしら。

C(略)自分の生き方なり何なりは社会に無関係  
ってことはありえないし、真の子どもらしい姿と  
はどんなものだろうかっていうことがわからない、  
(略)だから六年間やってきたことをまとめる時  
間がほしいの。

A(略)一人一人ちがう人なのに、やはり子ども  
と共にいる大人・保育者として共通のものがある  
ということ、けれどその反面、一人一人がその人  
として、一生懸命やっているのだということを感じ  
ました。(略)

## 『幼児の教育』

こころが新しくなります。

### 「日本幼稚園協会」一〇〇年

皆さんは、本誌の発行所がずっと「日本幼稚園協会」だったことをご存じでしょうか。実は、一九〇一年の創刊時は「フレールベル会」（一八九六年設立）という保育実践研究団体の機関誌でした。その「フレールベル会」が「日本幼稚園協会」に変わって、今年（二〇一八年）でちょうど一〇〇年なのです。

当時の就園率はわずか一、二パーセント。その頃は、現代でいう幼稚園も保育所（託児所）も多種多様な保育形態の施設がすべて「幼稚園」、保育者は皆「保母」と呼ばれ、資格制度も未整備でした。

一九一八（大正七）年の（最後の）フレールベル会総会で湯原元一会長が、会名を「日本幼稚園協会」に変更する理由について話しています。まだ、幼児教育の重要性はもとより幼稚園というものの社会的認知も低い時代。幼稚園は、制度的には「小学校令」の付帯条項としてわずかに触れられているだけでした。湯原は、もうフレールベルという「外国人」の名を借りている場合ではない、日本における幼稚園の存在意義を日本人として考え、保母の待遇改善などの要求を政治や社会に向けて主張する必要があると述べました。幼児教育の意義を世に問う湯原の気概は、現代を生きる私たちにもひしひしと伝わってきます。（本誌の前身『婦人と子ども』第十八巻第十一号）

### 本誌がこれから目指すこと

一世紀たち、日本の幼児教育をめぐる状況や制度は大きく変わり、「幼稚園」は、幼児が過ごす多様な場の一つとなりました。地域



子育て支援や認可外保育なども含め、多様な子育てニーズが社会的に了解され、子どもはもちろん、保護者や地域とも共同して生きる人であることが、保育者の専門性として強く求められるようになってきています。

三つの「要領・指針」が新たに実施される今年、『幼児の教育』も一つ新しいステップを踏み出そうと考え、次の二つのリニューアルポイントを掲げます。

①保育者、学生、研究者、子育てにかかわるすべての人の「それぞれの保育研究」を支えるテキストに。日常の中でふと読みたくなる記事から、手応えのある長めの論考（特集や探究）まで、多様な場で読め、共に学びあうきっかけづくりになる雑誌を目指します。

②保育や子どもに関する論考の投稿を受けつけ、査読を行います。保育実践研究、若手研究者の萌芽的研究も歓迎します。詳しくは、編集委員会へお問い合わせください。

### ◆研究論文を募集します◆

\*ピアレビュー（査読）の上、掲載します。

本誌の巻末、横書き部分の「探究」ページに掲載する論文を募集します。

- 【テーマ】 子ども、保育に関するもの  
【文字数等】 400字詰め原稿用紙36枚程度  
(写真・図表の分、本文が減ります)  
本文はワード原稿で作成してください  
【締め切り】 随時募集します  
【送付先】 本誌編集委員会

Mail:youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

◎ご投稿の際は、氏名、住所、電話、メールアドレス、所属・職名を明記してください。

\*本誌の発行所は「お茶の水女子大学『幼児の教育』編集委員会」となります。連絡先等も変わりますので、本誌巻末の奥付をご覧ください。

## 「なりたい自分になりたい」

佐々木麻美

(幼稚園教諭)

保育者になって十数年。娘を出産してからフリーとして保育に携わってきた私にとって、昨年は、久しぶりの担任生活となりました。家で夕飯を食べていると、「ママ、頭の中の半分以上、幼稚園のこと考えているでしょう」と言われ、ふと我に返ったことがあります。中でもA夫とのかかわりは、一学期からいろいろかかわってみるものの、なかなかぴたっとこず、考えることも多くなりました。

## 進級して……

A夫は、年少のときから仲の良かったB夫

と同じクラスに進級しました。新しいクラス、新しい担任、新しい環境の中で、お互いを支えにし、一緒の道具を持って園庭を歩いたり、同じ場所で遊んだりする姿も多く見られました。しかし、夏のある日のこと、A夫は他の友達と一緒に園庭を歩きながら、わざわざB夫に向かって「B夫君とは遊ばないからねー」と言いました。B夫は泣きました。その場にいた私も、何があつたのだろうと、とても驚きました。その後、B夫は自分から遊びを見つけるようになっていき、A夫は一人であることが増えてきました。

## 悶々とした日々

秋になると、A夫の不安定な様子が顕著になりました。この日は、朝からみんなの作ったものを触っては、つぎつぎと壊していました。かかわりを求め、一人ではどうにもできずにいる気持ちは伝わってくるけれど、話そうとすると、にやっとして逃げてしまうことを繰り返していました。私は、よし、A夫とかわるぞと決め、やっと思いつき、幼稚園の片隅に二人で座りました。

「今日一日そうやって、みんなのもの壊して過ごすの？」話のとっかかりに、わかっていながら聞いてみると……首を横に振るA夫。(そうだよね。それなら……)「何かやりたいことがあれば一緒にやるから教えて」。A夫の心の奥が知りたく、何か私にできることはないかという気持ちで訴えました。答えが返っ

てくるのだろうかと不安でしたが、A夫は小さな声で「にんじゃ」と答えてくれました。「そうなんだ！ よし！ やろう！」とすぐ立ち上がると、A夫も足取り軽くお部屋に向かいました。長い廊下を歩きながら「忍者のものを作ることできるし、忍者に変身して修行もできるけど、どうする？」と聞くと、「忍者になる！」と弾んだ声で言いました。

## 忍者の修行

A夫は友達がやっていた忍者の遊びを見ていたので、友達が使っていた修行のカードを見ながら、「片足ジャンプの術もできるよ」などと、A夫なりにアレンジして術をしました。そして、本に載っていた「洞穴の術」をするために、段ボールの洞穴も作ることにしました。というのも、A夫は友達が作ってクラスで使っていた段ボールの家に、邪魔する

ように入ったり壊したりしていたので、A夫の場所ができたらいかなという私の思いもあつたからです。友達もA夫が忍者の修行をしていることに気づき、一緒に洞穴に隠れ、出てくるという術を始めました。

午後、私は子どもたちと舞台上で忍者の曲をかけて踊っていました。A夫は一度も踊ったことはありませんでしたが、忍者の剣を三本持つて廊下をうろうろしていたので、みんなが舞台上で踊っていることを伝えてみました。するとA夫は、さっと部屋に剣を置き、舞台まで走って行って、みんなが踊る真ん中で踊り始めたのです。気持ちの赴くままに体も心も動き、弾んで踊る姿に、忍者になれたこと、ずっとやりたいと思っていたことができ、何かがふつ切れたことの、子どもにとつての意味を感じずにはいられませんでした。

## 洞穴から城へ

数日後、洞穴にA夫が大事なものを持ち込んでいたので、外へとつながるように「秘密の扉を開けてみようか？」と、一緒に窓を二つ開けました。しかし、洞穴の中は狭く、入ると身動きが取れないので、翌日、洞穴の入り口にくっつけてゴザを敷き、そのゴザを囲う囲いを牛乳パックで作ることを提案しました。牛乳パックに新聞紙を詰め、横に倒してつなげて見せると、すぐにやり方をのみ込み、手を動かし始めました。私が他の遊びにもかかわっているのと、「なんでそっちに行くんだ、来ないと○○（呼び捨て）って呼ぶぞ」と言ってくる。笑いそうになりましたが、A夫なりに私に伝えようと必死に考えたことが痛いほどわかったので、A夫のそばで作り続けました。たった一段の低いコの字型の囲いが出来上がり、二人で中に座りました。以前作

った亀も連れて、「電話もあるよ」と見せてくれたので、「隣のレストラン」に宅配の注文をし、二人と亀でおいしいご飯を頂きました。

お弁当の間もその場所をとっておくと、午後は友達五人が加わり、囲いを基点に積み木やついたたなどで場を広げ始め、そこは忍者の城となりました。城の外の人に戦いを挑み、友達の中で生き生きと動き回るA夫。自分を安心して出し、楽しそうに動いている姿に、私もうれしくなりました。翌日も、朝からすぐ動き始め、部屋中のものを使って、さらに自分の思いを表して作っていききました。

### 「なりたい自分になりたい」

誰でもなりたい自分はあるけれど、なれないときもあります。そんな悶々としたとき、本当に子どもが必要としていることが何なのか、なかなかわからず、私も苦しみます。た

だ、A夫がなりたい自分になれず、もがいていることはわかりました。私は、A夫が表すその時々することに寄り添いながら、洞穴にいるA夫と友達がかかわれる場になったらと願い、入り口にゴザを敷きました。

そして、A夫がこうした開かれた場でも安心して遊べるようにと、私はもつと高い囲いを作ろうとイメージしました。今思えば、私はA夫を周りからそれくらい守らなければと思っていたのかもしれませんが。しかし、A夫は、たった七センチの高さの囲いで安心して動きだしました。誰からも見えて、誰でも入りやすい囲い。そこには、A夫の『僕はここで遊んでいるよ、みんな入っていいんだよ』というメッセージを感じました。

これからも、子どもが表すことから子どもの思いや願いを感じ、共にもがき、喜びあいながら、ゆつくり歩んでいきたいと思えます。

# 心が開かれるとき

## — あるクラスでの出会いから

西 隆太郎

(大学教員)

ガラス戸の向こうから私を見つけてくれたA君に手を引かれ、一、二歳児のクラスに入った。Bちゃんが私に飛びついて甘えると、Bちゃんと仲良しのCちゃんもやって来てくれた。Cちゃんは私が前回このクラスから帰るとき、「もう来ないで」と言っていたから、そのことはずつと気にかかっていたところだった。私のかかわり方がよくなかったのかなとも、一緒に遊んでいたのに急に帰ることになったのが嫌だったのかなとも思っていた。

\* \* \*

Cちゃんは私と両手をつないで反つくり返り、ブリッジのように頭のでっぺんを床につける遊びを何度もする。ごつんとぶつからないうような私を気をつけているのだが、勢いよくぶつかりそうなくらいが、かえってCちゃんには面白いらしい。ぶつかりそうなスリルだけでなく、やりとりを楽しみたいという気持ちもあって、私がつないだ手をぶるんぶるんすると、Cちゃんは少し笑う。Cちゃんのそんな笑顔は初めて見た気がして、こんなふうに笑うんだ、と思う。そのうち、私の腕や肩を手でつかんで頬張り始めたので、私もうれ

しくなって、Cちゃんの膨らんだほっぺたを指で「ぷっ」とする。

そのうちCちゃんは、半透明の布を頭からかぶり、「おぼけー！」とやって来て、「ばあ」と布を取る。「あ、おぼけかと思ったらCちゃんだった！」と喜ぶと、何度も繰り返し、おぼけの「いないいないばあ」をして遊ぶ。その面白さが周りの子どもたちにも広がったように、みんながいろんな色のおぼけとなつて

私の所にやって来てくれた。



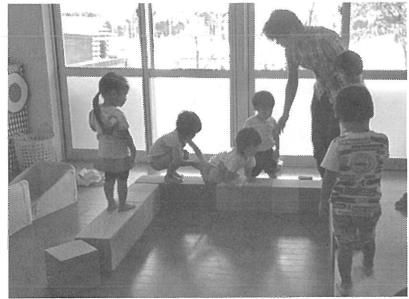
好きな色の布を引つ張りあつてい  
るうちに、少し転  
んでしまった子も  
いた。Cちゃんは  
その子の膝に寄っ

て、「大丈夫？」と声をかけている。他にもCちゃんは、先生の動きを察して、ペランダに出してしまった子を呼び戻そうと声をかけたりしていた。

これまでは、体をおつけたり転んだりする危なっかしい遊びが印象的だったのだが、Cちゃんはこんなふうに誰かを思いやったり、周りのみんなのことを考えてくれていたのだと気づく。今日は私にも、背中に布を掛けてさすってくれたり、その布を洗濯物のように、まめまめしく干してくれたりさえした。

このごろは言葉も増えてきたから、こんな優しさも見てとれるが、それはずっとCちゃんの中にあつたものだろう。私はこれまで、どれだけ気づけてきただろうかと思う。

Cちゃんの求めに応じて抱っこしていると他の子どもたちもしてほしくなるので、忙し



く抱っこしながら、少し高い所にある飾り棚のお花やクマさんを一緒に見ていた。どの子も私に、「ママ」「パパ」と呼びかけてくれる。ちょうど食事の時間が近づ

き、私も帰ることにした。「そろそろ帰るね」と言うと、Cちゃんのほうから「また一緒に遊ぼうね」と言ってくれた。膝の上でくるCちゃんを「ありがとう」と言って抱きしめ、みんなに手を振ってもらって別れた。

これまでこのクラスを訪れたときは、求められて抱っこしても、よじ登ってじゃれるような遊びになることが多かったが、今日は私自身、どの子のことも、ずっと自然に抱きしめられる気がした。

\* \* \*

何年保育園に通っていても、「心から」その子とつきあうことが、どれだけできていただろうか。この日は、「子どもが求める範囲で」といった枠を超えて、自分自身の気持ちで、その子たちを大事にしようと思えた気がする。気を張ってというよりは、今まで以上に自然と気持ちを通じあえた気がする。

ママやパパとの体験が思い浮かぶような自然なかかわりは、「保育者の専門性」とは異なるものと考える人もあるかもしれない。しかし、一、二歳のあどけない子どもたちは、そんな接し方を求めても当然なのではないだろうか。保育の専門性と呼ばれるものも、その基盤は、子どもたちと心通じあう、ありのままの人間としての体験にあるのであって、こうした人間的基盤を排除して専門性をつくり上げるわけにはいかないように思う。



心を開いて子どもたちと出会うとはどんなことか……それは、自分自身の体験を通じて、また自分自身のとらわれを超えて、体感し、深めていくべきことのように思う。

子どもたちも、私たちに最初から心開くことができずには限らない。最初は危なっかしいような遊びから始まって、いつしか子どもたちのほうから私に心を開いてくれた。心開かれるとは、どちらか一方だけでなく、互いの心が通じあって進む過程なのだろう。

みんなの「いないいないばあ」が始まると、どの子の「ばあ」も見えてあげたくて、忙しくなる。子どもたちに「見てほしい人」と思ってもらえることは、とてもうれしいことだと思う。

ある日は「もう来ないで」、別の日は「また遊ぼうね」と言う。そのことも、日にちをか

けた「いないいないばあ」のようなものだったのかもしれない。

その時、その場ではつかめないもの、一つのエピソードを見ただけではわからないものが、つきあっていくうちにわかることがある。出会うたび、子どもたちと私の関係も変わっていく。

雨の日もあれば晴れの日もあるように、子どもが私に向けてくれる気持ちも、そのときどきによって色合いを変えるだろう。それでも、今日のように出会えたこと、これまで互いにかかわってきた時間が、これからの過程に生かされていくことと思う。

レポート

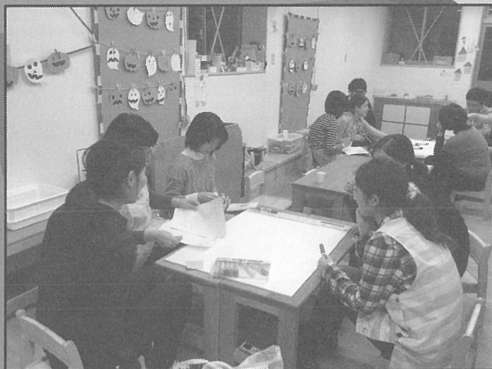
# こども園をつくる

—文京区立お茶の水女子大学こども園の記録—

## Vol.8 / 保育を支える連携と同僚性

～ シフト勤務制を生かす工夫から ～

森永路子



開園以来、本園では「子どもたちがこども園で過ごすすべての時間を豊かに」「子どもたちの自然な生活の流れで過ごす」「丁寧にかかわることを大切に」という願いを繰り返し確認しながら、保育を探求してきました。

私は、主任保育士として保育士の勤務シフト作成を担当しています。開園当初、本園のシフト勤務制は実現したいこと（保育や保育者同士の語り合いなど）を阻むもののように私には感じられていましたが、今では保育内容の充実と保育者の連携・同僚性を密にする可能性がある時間づくりの資源のように捉えられるようになりました。

保育者同士の協力体制やシフト勤務は、保育の質を支える「労働環境の質<sup>※1</sup>」とも、保育の質の側面——「構造の質」「実施運営の質」「プロセスの質<sup>※2</sup>」とも捉えられます。本園でも保育の質のためにより良い体制を探求しています。本園のこれまでのシフト勤務制の課題とその対策について、経過を追いながら

森永路子（もりなが みちこ）

文京区立お茶の水女子大学こども園主任保育士。

とめます。

## 長時間保育を支える保育士のシフト勤務制

### 〈開園当初の状況〉

本園は、7時15分～18時15分の通常保育時間に、19時15分までの1時間が延長保育時間の十二時間開所、月曜から土曜まで週六日開所の園です。教育標準時間は三歳児が9時～13時、四、五歳児が9時～15時です。前出(本誌第一一五巻第三、第四号)「こども園をつくる」(参照)の通り、園舎園庭などの環境は広くはありません。

クラス編成は各歳児(〇～五歳)一クラスで担任は二人ずつ、園全体では六クラス(学年)です。開園時刻から一時間経過した8時15分から18時15分までは、それぞれの保育室(一階乳児フロアに〇歳児室と一～二歳児室、二階幼児フロアに三～五歳児室)で過ごします。常勤保育士(クラス担任十二人と主任)は、早番から遅番まで複数のシフト、土曜当番と

平日振休のある勤務で長時間保育を支えます。他に数名の非常勤保育士が〇～二歳クラス、支援児の援助や午後の幼児フロアの保育補助に、私はフリー保育士の立場でフォローが必要などころに入ります。

子ども一人ひとりにきめ細やかな対応をしたいという願いから、本園の保育士の配置は、最低基準より多めの時間帯もあります。しかし本園の勤務シフトは、シフトのバリエーションが多い上に早めと遅めのシフトが毎日交互になるような不規則勤務になっており、厳しい状況です。環境的な制約(保育室の広さなど)と、保育方法(子どもたちの活動の充実のために場を分けることや移ることを保障する)との兼ね合い、そして保育者の願い(保護者と毎日顔を合わせて子どもの様子を伝えたいという担任の思い)があり、それらを大切にしたときに浮かび上がる課題がいくつもありました。以下に課題を挙げ、その解決のために行ったことをまとめます。

## 〈課題と対策、結果〉

### 課題①…「フォローしたい」

「遅番出勤者を待たずに散歩に出たい」「中早番の退勤の頃は、遊びが二か所で盛り上がり過ぎて退勤しづらい」など、フォローを求める声が上がりました。でも、それが二〜三クラス同時のため、フリー保育士一人では全箇所はフォローできないという状況でした。

**対策**…フリー保育士が対応できる時間割をあらかじめ示し、フリー保育士が対応できない時間帯は他クラスと合同保育をするなど、協力的体制をみんなで作りました。また、一日の流れをクラスやフロアで一緒に丁寧に確認し、クラス間の連携と保育の工夫を考え、非常勤保育士の勤務時間や役割の見直しをしました。  
**結果**…クラス担任が時間的な見通しが持てるようになり、フロア内で体制を確認しながらクラスの活動や内容、フロアで一緒に過ごす時間の過ごし方を話しあうようになり、他クラスと相談や連携することが増えました。

### 課題②…「担任同士で話す時間がとれない」

クラス担任二人は休憩時間を交代でとり、勤務シフトが早めと遅めで違うため、一緒に保育をしていても、打ち合わせ時間どころか休憩中や勤務前後に二人で雑談をする時間もほとんどないという状態でした。四、五歳児は、15時までが教育標準時間で、午睡は必要なのみです。〇〜三歳の子どもたちはそれぞれの生活リズムで過ごすので、起きている子と眠っている子がいて、遊びの援助と午睡中の呼吸チェック・見守りをするため、非常勤保育者と共に担任のうち一人は保育室に残ります。

**対策**…交代で休憩をとる担任に代わってフリー保育士が保育に入る時間をつくり、せめて五分でも休憩時間中に担任同士が雑談できるようにしました。

**結果**…はじめは五〜十分間程度の二人で過ごす短い時間でしたが、二人の休憩時間を重ねると保育室に二人が一緒にいる時間が増える

ことに気がつき、休憩時間中の雑談とは別に、話しあう時間がつくれるようになりました。今では他クラス同士でその時間をつくりあうようになりました。

**さらなる対策**…開園二年目の平成二十九年度には、クラス担任二人が一緒に夕方から研修に出かける機会も設定しました。

**結果**…担当歳児の保育を一緒に学び語りあう機会は貴重です。同じフロアの他クラス担任たちが当番を引き受けるなどしてフォローし、互いに調整しながら研修や打ち合わせの時間をつくりあうという協力体制ができました。

### 課題③…大人の動きと子どもの生活の流れ

開園から一年たち、保育者がシフト勤務に慣れ、勤務時間の切れ目を意識するようになると、勤務の切れ目の時間と子どもたちの生活の流れや遊びの盛り上がりとの時間が微妙にずれていることに気がつきました。子どもたちと日々過ごしている担任の大切な視点です。

**対策**…幼児、乳児のフロアごとにシフト調整

担当者をおき、フロア内の勤務シフトを子どもたちの生活の流れに沿ったものに柔軟に変更できるようにしました。フロア内で一人の勤務時間を十五分、後の時間にずらし、登園児がまだ少ない朝の時間は十五分間フロア内合同で過ごす時間を延ばし、延長保育直前の十五分間、疲れの見える子どもたちがクラス担任と落ち着いて過ごせるようにする、というようなやり方です。

**結果**…子どもたちの様子や育ちに添う、きめ細かい配慮ができる体制になってきました。

### 保育を支える連携と同僚性

へさまさまな大人とつながって

保育士同士だけでなく、こども園では栄養士と連携して食育の充実を、看護師と連携して健康と安全指導の充実を、他にもさまさまな方々（アート・表現・音楽・遊び場……）

と連携して、子どもたちの経験をより豊かに……と、保育を創造しています。また、保育の振り返りを行う中で、保育観につながる語り合いが充実し、大切にしたいことの共通認識が進んだように思います。「眠る・食べる・遊ぶを、豊かに、安全で健康に」「1号、2号（認定）のどちらの子どもたちにも寄り添い、必要な配慮を丁寧」「教育標準時間、夕方の保育とともに、さらなる保育の充実を」「養護面を丁寧に家庭的に」などです。

職員会議でその月のクラスの様子や保育のねらいを伝えあうこと、園内研究会で保育者の思いを語りあうことを重ね、子どもの育ちや保育で大切なことを共有しようとしています。

### 〈語りあう時間を大切に〉

私たちは本園の開園時に出会ったときから、「保育を語りあおう」としています。月に一回程度の園内研究会の時間は、事例を持ち寄

って語りあいます。雑談から始まったクラス担任同士の時間は、打ち合わせや振り返りの時間になり、フロアの保育者同士の打ち合わせや話し合い、そして語り合いにつながってきました。

開園当初は開所時間内や勤務時間内にはつくることが不可能と思われた語りあう時間を、開所時間を過ぎる超過勤務での対応ばかりせずとも当番担当者を調整することで、開所時間内のできるようになってきました。「何（どんな時間）を大切にしたいのか……」「これ（保育も語り合いも）を実現するためには……」と考えながら当番担当者の組み合わせを工夫すると、時間や体制がづくり出せそうです。

### これから

〇～三歳児クラスは午睡の時間、四、五歳児クラスは教育標準時間後の異年齢で過ごす時間を中心に、互いに時間をつくりあうよう

になっています。また平成二十九年秋からは、通常、延長保育当番が乳児フロアと幼児フロアに一人ずつのところ、その一方を私が引き受けることで、そのフロアでは、18時15分～19時15分にフロアの保育者同士が全員顔を合わせて話しあえる新たな時間ができ、新しい語り合いも生まれています。二か月に一度は話し合いの機会をもちたいという声になり、取り組み始めたところです。

全職員での語り合いや共有が十分とはまだまだ言えませんが、保育者同士が主体的に連携し、主体的に打ちあわせ、同僚性が育ってきているように思います。保育の構造が整うことも大切でしたし、共通理解をすることと感謝の気持ちや助けあう気持ちを伝えあい支えあえる大人同士の関係性が、保育の質を高めることにつながるように感じています。

新指針・要領の改訂(定)、保育士の処遇改善や働き方改革等、世の中の動きもあって、保育士の働き方と保育の質が問われています。

保育の質と法令のどちらもしっかり守る、よい良い保育を探求しながら、今日も丁寧に子どもたちに向きあっていきたいと思っています。

## 1 注

保育の質を支えるものを①プロセスの質、②構造の質、③労働環境の質の3要素と捉える。(大宮勇雄『保育の質を高める』ひとなる書房 二〇〇六年)

## 2

保育の質の六つの側面を①志向性の質、②構造の質、③教育の概念と実践、④保育プロセスの質、⑤実施運営の質、⑥子どもとの成果の質、と説明。(秋田喜代美『保育の質とは何か』NHK「視点・論点」二〇一七年八月一日放送 [www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/](http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/))

## 参考文献

- 1 宮里暁美『子どもたちの四季』主婦の友社 二〇一四年
- 2 汐見稔幸『さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか』小学館 二〇一七年
- 3 無藤隆「国の動きを読む!研究者の目2017 教員の働き方改革を巡って」『保育ナビ』二〇一七年十二月号 フレーベル館
- 4 矢藤誠慈郎『保育の質を高めるチームづくり』わかば社 二〇一七年

## 倉橋惣三との対話 ⑤

## 「森の幼稚園」という理想（その3）

浜口順子

（大学教員）

アメリカの地における「森」への思い

シカゴから汽車に揺られドーナー・グローブに降り立ち、そこで倉橋先生は、それまでアメリカで見たどの園よりも居心地よく「一番好きな幼稚園を見出し」たのでした。先生がそれほど気に入った理由を、私は、その九年前に先生が「森の幼稚園」として奇しくも描いていた理想の幼稚園を目の当たりにしたからだと初めは思いました。でも、おそらくそれだけではなかったのですね。次の部分を読み、そこには、レイチェル・カーソンにも影響を与え、現代のエコロジー運動の祖として有名なヘンリー・ソロー（Henry D. Thoreau 1817～1862 倉橋先生はトローと書いています）が関係していたことを知りました。

私は初等科の細工場の傍にある、先生の書棚の中に、教育書や博物学の書物の間にまじえて、トローの四季日記集のあるのを見つけました。そして、ちょうどそこへ来合わせたミス・マルセに向って、ありますね、と指さして見せました。ミス・マルセは何ですかというように硝子戸に顔を寄せて見て、例



の言葉少なに、いい本ですねといいました。これは私の最も好きな本の一つです。私は早くコンコードに行つて、トロリーの愛した自然が見たいと思つています。しかし、今日は、長く自然に餓えていた私の心が汽車の沿道からして、すっかりと充たされました。ここに来てからは、この森の景色が、どの位私を喜ばせたか分かりません。(中略)——こう流暢にいったかどうか分かりませんが、何しろ今朝から久しぶりの自然に張りつめている私の心は、トロリー集を見るに至つて抑えきれなくなつたものと見えます。

〔倉橋惣三選集 第二巻〕フレールベル館 一九六五年 pp.413-414

ソローの『ウォールデン—森の生活』は明治末には和訳されてきました。倉橋先生は英語の原文で読んでいたかもしれませんが、先生の学生時代にはすでに話題になつていたはずで、産業化の波を受けて都市と田園とが遊離し、利益・効率の追求へと人間の欲望が偏向するという近代の問題を、科学的に、しかも生活者の視点から問うというパラダイムに倉橋先生も出会い、アメリカの地でその空気を吸つていらしたという事実。また、学生時代に先生が心酔し仲間と学びあつた内村鑑三の思想にもソローの影響は大きいといわれますから、もしかしたら、一九一一年に倉橋先生が描いた「森の幼稚園」の中にもすでにソローの自然観が反映していたということでしょう。そういえば、倉橋先生はすでに同じ頃、都市化の中で子どもたちの健康や身体能力が衰えていることを危惧して訴えていましたね。

ソローが生まれたコンコードの地には、その後、行かれましたか？ 二年余の長い留学期間の終盤ですから、アメリカの文明や新進性の中で、先生の心もいつの間にか、自然の潤いやミス・マルセの染み入るようなもてなしに飢えていたのでしょうか。

## 明治末に倉橋が描いた「森の幼稚園」の先進性

最後にまた、倉橋先生自身が二十代末に描いた理想の幼稚園のほうに話を戻させてください。現代の幼児教育現場にも新鮮な問題提起をしてくれていると思います。

### (1) ユニークな専門家の配置

まず、「園芸主任」という人が職員として雇用されていますね。花田さんというお名前の。「森の幼稚園」には、四季の草花が咲き、果樹園や畑がある。また家畜小屋、鳥小屋もあって、多様な生きとし生けるものの世話をする方が、いわゆる「ガーデン主義」（フレールベルの思想の実現です）の担い手になっています。園長先生は花田さんにごう言います。

「ねえ君、温室のように無理強いに咲かすのでもないし、といって勿論、野原のように野生のまま放任して置くのでもなし、自然に生長して、自然に咲くべきものに、適当な培養を与えるのが君の仕事でしょう。——つまり幼稚園なんだねえ」（同p87）

もう一人、深井さんという「研究主任」がいます。毎週水曜の午後二時間、深井さんが入念に準備した研究会がもたれ、保育者たちの真剣な学びが展開されます（別に、詩を味わったり創作したりする「詩の会」というものもあり、そのある週はないのですね）。例えば、フレールベルの『マザープラー』（母の遊戯及育児歌）を、英訳本と日本語とを比較検討し、他の文献にもあたって周到に準備されます。深井さんは「米国のクラーク大学に三年ばかりいて、その後ベルリンの

ペスタロッチ・フレーベル・ハウスで暫く研究して来た人」とのことですから、いわゆる充て職的な研究主任ではありません。本物の研究を通して保育者を育てることを倉橋先生は大事に考えておられたということでしょう。

## (2) 保護者支援の場

「森の幼稚園」には、大きな応接室が二つあり、一つは研究的来訪者のため、もう一つは幼児の親たちのためのものです。親のための部屋は、四季相応の設備はもちろん、家具調度品や装飾も派手過ぎず、打ち解けた雰囲気にするよう配慮されており、冬は珈琲、夏は麦湯で応対をするこゝまで書かれています。夜更かし癖について相談に訪れた正男君の親は、その後「この頃では奥様、八時になりますと自分からやすむのでございますよ」とおしゃべりをしに来たりしています。

こういった調子で、少しもあらたまらない、極く親しい、心おきない談話の間に幼稚園から注意も与えれば、家庭からの注文もきく、殊に保育上の参考になるべき互いの打合せを十分にします。

先生が始終いつておられます。「この応接室がなくては我らの保育は半分以上出来ない」と。(同p.90)

不幸な境遇で苦勞した春野さんという、夫を亡くし幼子を抱えた女性が職員となり、職場環境の中で晴れやかな「笑がおの人」になっていくというお話もありました。現代的な言い方をする、多様な人が出会うコミュニティ的な教育環境を、すでにイメージされていたのではないのでしょうか。幼稚園臭くなく、その中で大人も子どもも、それぞれの自分らしさを發揮して、自然に生活する場として。

# 幼児の自然体験に寄り添って

余語晶子

(フィールドガイド)

年代別に遊びの様子を紹介します。

## 赤ちゃん期（0歳～1歳前半）

赤ちゃんも、暑さ、寒さ、紫外線から守ってあげれば野外に連れていくことができます。

生後六か月の赤ちゃんでも、森に入ると、木漏れ日のキラキラや葉っぱ

がさやさやすることなど、目をきよろきよろさせて喜ぶ様子が見られます。

一歳にもなると、水遊びや泥遊びなど全身を使った遊びも喜ぶようになります。



▲お昼寝は日傘の下で。

余語晶子（よこ あきこ）

2004年にカヌーと自然観察のショップを立ち上げた後、2010年にファミリー専門の自然体験のショップを友人と立ち上げる。活動拠点は沖縄県西表島。

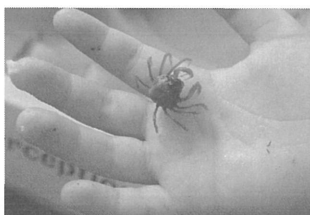
私は家族を対象とした、幼児の参加できるネイチャーツアーを運営しています。

二名のガイドでこの一年間に二二〇組が参加。子どもの人数は三三三人、うち七歳以上は七人と、ほぼ幼児でした（〇歳二十一人、一歳三十三人、二歳六十一人、三歳三十六人、四歳五十六人、五歳四十六人、六歳三十人）。

フィールドはマングローブの川、干潟、ジャングル、溪流、海、ビーチなどで、体験できることはカヌー、干潟の生き物探し、ジャングルトレッキング、溪流水遊びなどの他、ネイチャーゲームやヤシの葉っぱのクラフトなども取り入れています。



▲川の水の流れが不思議でたまらない。



▲カニさん怖くないよ。

カーヌーは抱っこひもに入って乗りますが、水の上でゆらゆらするのが気持ち良くて寝てしまうお子さんが多いです。

**よちよち期 (一歳後半～二歳くらい)**

この頃になると、魚やカニを見てわかるようになります。大人が捕った生き物を真ん丸目で観察したり、小さな手で触ったり。魚が意外とぬるつとしているのにびっくりして手を引つ込めたりします。まだ自分の手で魚を捕ることはできませんが、網で葉っぱをすくったり、ヤシの葉っぱで作ってあげた魚のお

もちゃで遊んだりして喜びます。

カーヌーに乗るときは大人の膝の間にお座りしてもらうのですが、「自分で」の強いお子さんは、大人からパドルを奪って一生懸命動かしたりもします。

**わんぱく期 (三歳～六歳くらい)**

年齢が上がるに従い、できることが増えてきます。

水に慣れているお子さんでしたらゴーグルやシュノーケルマスクを着けて、水が苦手なお子さんも「箱メガネ」で水中観察ができます。その子に応じた高さからの飛び込みなど大胆な水



▲楽しくて楽しくて。



▲私もやってみたい!



▲「僕、自分で捕ったよ」



▲川の探検に出かけるよ。



▲小学生になるとこんな大胆なジャンプも。

遊びも楽しめるようになり  
ます。

トレッキングは子ども  
が行きたそうにして  
いたら、道ではなくあ  
えて川の中を歩くなど、  
子どもの冒険心を満た  
すこともあります。

四歳くらいから、大  
人がお手伝いしながら  
ですが網で小魚を捕る  
こともできます。「僕、  
お魚捕ったんだよ」と  
旅行から帰ってもずっ  
と云っているという話  
をよく聞きます。

このくらいの子は年齢の  
子は自分で身体を動か  
して生き物を探したり

泥遊びをするほうが楽しい  
ので、たいていカヌーをも  
つと漕ぎたい大人と干潟で  
ずっと遊んでいたい子ども  
のせめぎ合いとなります。

このように、幼児でも心や体の発達に応じて  
自然遊びを楽しむことができます。「小さな子  
どもを連れて、こんなに遊べると思わなかった」  
という感想をよく頂きます。できなかつたこと  
ができるようになったり、苦手を克服できたり、  
子どもの成長を親御さんと一緒になって喜べた  
ときはやりがいを感じます。

### 自然の力を借りながら

多くの子どもは自然の中で自分で楽しいこと  
を見つけて生き生きと遊びます。ですが、なか  
なか遊びに入っていけないお子さんもちろん  
います。



▲干潟は広大なお砂場。やりたい  
放題です。

砂が嫌で生き物が怖いお子さんは、干潟で遊ばせようとしても意地でも地面に足が着かないよう親にしがみつきます。徐々に慣れていくお子さんがほとんどですが、カヌーから絶対に降りないのでカヌーの上でおままごと（葉っぱのお弁当作り）をしたこともあります。

水が苦手な二歳の男の子。足が水に着くだけで泣いてしまいます。ケチャップの空き容器の水鉄砲から始めて、少しずつ水の楽しさを見つけていきます。だいぶ慣れてきたから今度は浮き輪に挑戦、と思っても、初めて見る浮き輪を怖がります。その日は他にも一家族、少し年上の女の子がいて、男の子に「怖くないよ」と声掛けをしたり、楽しく遊んでいるところを見せてくれたりしました。その甲斐あって最後には浮き輪をマスター。浮き輪に入ったら「楽しい」ということに急に気がついて楽しく遊ぶ頃には時間切れ。今度は帰りたくないと言っているので、大人は大笑いでした。

カヌーが嫌で号泣していた二歳の女の子（おそらく、カヌーに乗る前に楽しんでた泥遊びを中断させられたため）。トラウマになったらどうしようと思っていたら、後日、「あんなに泣き叫んでいたのに、パンフレットに載っているカヌーの写真を見たら、『○○ちゃん、これ乗ったね』と満面の笑みで言うんですよ」とお母さんから知らされ、子どももって本当にわからないものだと思います。

自然遊びが苦手でも、川の水が冷たいと感じることだって体験の一つなので、子どもが自然と触れあうことは大事だと思っっています。一人ひとり好きなこと、苦手なことも違うので、子どもにも学びながら、自然の力を借りながら、子どもの自然体験に寄り添っていきたいと思います。



▲あっちに何がいるかな。

# 幼稚園教育要領、保育所保育指針、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の 改訂(定)とこれからの保育

松島のり子

(大学教員)

## 保育という営み

今を生きる子どもは、将来の大人でもある。保育や教育は、日々の生活の中で人と人とかかわりあう間に成り立つ人間の営みであり、一瞬一瞬の積み重ねが、子どもの育ちを導く。今日一日が将来をすべて決定づけるわけではない。しかし、未来は常に現在の先にある、今日と連なっている。人間が相互に影響しあい展開される一日一日の保育は、一人ひとり子どもにとって大切な意味を持っている。

二〇一七年三月、「幼稚園教育要領」「保育

所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改訂(定)告示された(以下、まとめて記すときは「要領・指針」とし、改訂(定)は「改定」とする)。二〇一八年四月に施行される。

今回の改定にも多くの人々が携わっており、考えを寄せあい、練りに練って検討された過程がある。改定に伴う変更点やその解説については、数多く刊行されているガイドに譲り、本稿では、今後の保育を考える一助となることを目指しつつ、筆者が巡らせた考えを記すこととしたい。



## 法律のはやまり

今回同時に改定された要領・指針の検討の過程では、互いの整合性確保に留意<sup>注1</sup>された。その結果として、例えば「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、三つともに記載されている。また、幼稚園・保育所・認定こども園すべてに共通する対象である三歳以上児に関して、五領域の「ねらい」「内容」「内容の取扱い」の記述は、ほぼ同様である。目に付く違いといえば、保育者を示す「教師」「先生」「保育士」「保育教諭」、子どもを示す「幼児」「子ども」「園児」、それぞれの使い分けを挙げることができる。

内容面での整合性を図りながら、徹底してそろえない用語の使い分けも法律の違いゆえであろうか。内容がそろえられただけに、ささいな違いがかえって際立つ。そのことが、幼稚園・保育所の関係、そして認定こども園が加わった保育施設の関係をめぐる積年の課

題の根深さを反映しているようにも思われる。

## 相互補完的な要領・指針の関係

「保育所保育指針」改定に向けて「社会保障審議会児童部会保育専門委員会」の委員長を務めた汐見稔幸によると、今回の改定の「重要ポイント」は次の三つである。

- ① 養護の重要性の再認識
- ② 幼児教育への新視点の導入
- ③ 保育の質の向上のための努力<sup>注2</sup>

しかし、これらは「最重要」とされるにもかかわらず、要領・指針の中で関連する内容が言及されたりいなかったりする。各施設の根拠法令の違いゆえに、記載の有無も含めて相違が生じているという<sup>注3</sup>。主点をまとめると次ページの表のようになる。

幼稚園、保育所、認定こども園は、養護という保護的要素も持ちあわせた（幼児）教育としての保育を担う場である。（今回の改定では、要領・指針において強調されたという変

※	項目	幼稚園 教育要領	保育所 保育指針	幼保連携型認定 こども園教育・ 保育要領
②③	前文（幼児期の教育の位置づけ）	○	—	—
①	養護（生命の保持と情緒の安定）	—	◎	○
②	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	○	○	○
②	資質・能力の3つの柱	○	○	○
②	主体的・対話的で深い学び	○	—	○
③	カリキュラム・マネジメント	○	—	○
③	職員の資質向上	—	○	—

「○」は記載あり。※欄は最重要ポイントとの関連を示す。

化はあるもの（）これまでもそうであった。そうした保育にかかわる人々が、子どもたち一人ひとりの確かな育ちにつながるために、より良い保育を目指し日々努力している。

下「十の姿」は、五領域に基づいて十項目に整理されたものであり、小学校教育との接続強化を期して明記された背景がある。家庭への周知も念頭に置かれていた。<sup>註4</sup>

この「十の姿」について「育ってほしい」と願う主語には、社会、保育者、小学校教諭、大人など多様な主体が考えられる。どれもが該当し得る曖昧さと可能性から、現在の日本における子ども観の一端がうかがわれるとともに、子どもたちにとのよう保育をしていくかを問う余地をもたらししているようにも思われる。

また「十の姿」は、明記されたことによるわかりやすさに反し、その解釈や認識においては難しさを伴っている。

改定された要領・指針は、相補いあう関係にあることに鑑みると、各要領・指針を通して学ぶことに加えて、施設の違いを越えた交流や対話も意味を持つと考えられる。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」考

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（以

要領・指針には、幼児期の終わり——小学校就学時の「具体的な姿」として、保育者が指導する際に考慮するよう記されている。保育の計画、実践、評価等においても保育者に意識されるであろう。「育ってほしい」とい

う願いが込められた「十の姿」をいかに捉えるかは、考えだすと大いに議論の余地がある。保育には、子ども理解が不可欠である。保育は、目の前の子どもの実態に応じて実践される。多様な主体が求めていると想定できる「十の姿」が明文化されたとしても、保育は保育に携わる人々と子どもたちによつて創造されていく。あくまでも、目の前の子ども一人ひとりの姿を丁寧に捉えていくことが基本となることを、忘れずにおきたい。

## 豊かな保育と子どもの育ちを目指して

新しい要領・指針をよりどころとするこれからの保育は、これまでの保育の蓄積の上から実践される。要領・指針の改定を受けて日々の保育にどう臨むか、今まさに問われている。秋田喜代美は、「新指針や新要領が、保育の質にどうつながるかを自分事として考えることの重要性に言及している。幼稚園・保育所・認定こども園は、共に保育を担うから

こそ、制度や施設の垣根を越えた対話ができ、互いの良さを生かした保育のさらなる向上が可能なのではないだろうか。そうした契機としても今回の改定を受けとめ、これからの保育を考え続けていきたい。

### 注

1 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」pp.72 - 83、社会保障審議会児童部会保育専門委員会「保育所保育指針の改定に関する議論のとりまとめ」、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に関する検討会「幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に関する審議のまとめ」

2 いずれも二〇一六年十二月。汐見稔幸『2017年告示 新指針・要領からのメッセージ さあ、子どもたちの「未来」を話ませんか』小学館 二〇一七年 p.126

3 同右 pp.48 - 126

4 前掲中央教育審議会答申 p.78

5 秋田喜代美『保育の心意気 続々保育の心もち』ひかりのくに 二〇一七年 pp.142 - 143

春を見つける

いつものお庭や  
散歩道で

中村紘子

(小学校教諭)

園にある見えるもの、見えないもの。子どもの体いつばいに降り注ぐ、大人からのメッセージ。

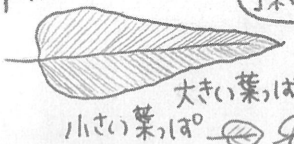
地面に近づいて 春を感じよう

園庭や道端に色とりどりの小さな花が一斉に咲き始める春。優しい青はオオイヌノフグリ。暖かい黄色はタンポポ、カタバミ、ハハコグサ。白やピンクの花もあちこちに...

春の匂いかする!

いろいろな形や模様を探して遊んでも楽しいね! / ギザギザ

④ 葉っぱもさまざま



大きい葉っぱ  
小さい葉っぱ

セトウタンポポ  
カラシエンドウ (これぞ1枚の葉) りん



クローバー(シロツメクサの葉)を探しに出かけよう!

よく見ると、いろいろな模様のクローバーがあります。

見つけると幸せになれる

四つ葉のクローバーは

葉っぱが元気に茂っている所より

ひっそりとした場所に

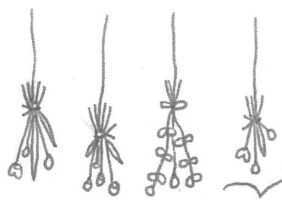
見つけやすいといわれています。

クローバーも夕方になると葉を閉じて眠ります。

四つ葉まで出ておい!



中村紘子 (なかむら ひろこ)  
小学校図工科講師。森のようちえんや木育を通した子育て支援に関心をもち、千葉県にて木育おもちやカフェの運営に携わる。



園庭やお散歩道から  
持ち帰ってきた春の小さなお土産

どんなふうに  
楽しめるかな...



束ねてつるしてドライフラワーに...

クローバーは乾燥させると、贈り物の緩衝材にも  
なります。江戸時代、オランダから輸入するガラスの箱に  
ガラスが割れないように一緒に詰めていたことから  
「リム草」と名付けられたといわれています。

押し花にして額に入れても  
すてき!!



花びらびひら  
でもかわいらしい  
印象に♪



茎や葉と一緒に  
入れても楽しい!

テラリウムコーナーを  
作っても楽しいね!



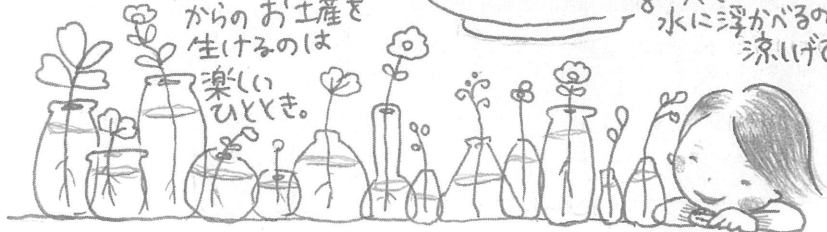
草花をティッシュペーパーの  
間に置き、分厚い本に  
挟んで1週間ほど  
そのままに。

テラリウムとは...  
陸上の植物や小さな  
生き物をガラス容器などで  
飼育・栽培することです。  
お気に入りの小鉢瓦を  
持ち寄り、園庭やお散歩道  
からのお土産を  
生けるのは  
楽しいひととき。



お花も  
葉っぱも  
気持ち持ちます!!

大きめの器の中が  
水に浮かべると  
涼しいです。



年齢班	クラス規模 (人)	全日制		半日制	
		専任教師	保育員	専任教師	保育員
小班(3~4歳)	20~25	2	1	2	条件整え た園は保 育員一名
中班(4~5歳)	25~30	2	1	2	
大班(5~6歳)	30~35	2	1	2	
混齡クラス	<30	2	1	2~3	

表2 幼稚園クラス規模と専任教師・保育員の配置水準  
出典)『幼稚園教職員配置水準』(2013)に基づき、筆者が訳した。

#### (4) 幼稚園教師への評価

職称(「教師専門技術職称」の略称)は教師の資格と能力に対する専門的な評価と認定を行うためのシステムである。職称の種類によって教師の専門的能力(教育活動を行う能力、教育研究を行う能力等)に対する要求と評価の手続きは異なる。中国ではまだ幼稚園教師に向ける独立した職称評価システムがないため、現在、中小学校の教師評定基準を参照している。図4を参照し、上から下への順でいうと、「中学校高級」「小学校高級」「小学校一級」「小学校二級」「小学校三級」「職称なし」となる。例えば、「中学校高級」の職称に準じる要件について、「学歴要求」「職業道徳」「教育研究に関する要求」など多くの項目が設けられている。例えば博士号を持つ者は、小学校高級の職称で2年間以上の仕事経験を有すること(「学歴要求」)、第一著者で3万字以上の本を出版すること、あるいは市以上のレベルの公開雑誌で教育研究の論文を2本持つこと(「教育研究に関する要求」)、処分(論文の剽窃など)を受けていないことなどが必要とされる。(文責:盧)

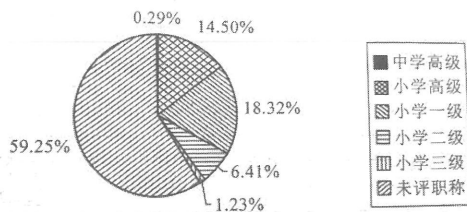


図4 2008年中国全国における幼稚園教師の職称の構成  
出典) 庞丽娟、洪秀敏編『2011年中国就学前教育發展報告』(2012)北京師範大学出版社

注) 「中学高級」は「中学校高級」、「小学高級」は「小学校高級」、「小学一級」は「小学校一級」、「小学二級」は「小学校二級」、「小学三級」は「小学校三級」、「未评职称」は「職称なし」を訳す。

ベルを定め、園の収益を求めることはできる。訪問先のC園は営利型私立幼稚園に属する。対照的に、サービス型私立幼稚園は用地費用と土地使用税等が免除され、園の運営経費の補助金が政府によって援助されている。ただし、園の収益は法人が有することはできず、園の発展に還元すること、政府が定めた学費標準に準じる等の条件がつけられている。そして、国家レベルの法律と省レベルの評定方法に準じ、サービス型私立幼稚園が評定される。

## (2) 入園率と幼稚園教師

2016年、中国の入園率は77.4%に達成した。2009年の50.9%と比べ、10年もないうちに、中国の入園率は26.5%も向上した。中国の『第三期(2017-2020)就学前教育行動計画の実施意見』(2017)において、2020年までに入園率を85%に改善することを政府の目標と挙げられている。

2015年、中国における幼稚園の教員人数は205万人となった。そのうち私立園の教員人数は127万人である。図3から見られるように、2001年、高校卒の学歴を持つ幼稚園教師は60%で最も高い割合を占めるが、2008年になると、専門学校卒の幼稚園教師の割合は高校卒の割合を超えた。同時に、高校卒以下の幼稚園教師が減っている一方、大学卒以上の割合は徐々に増加している。つまり、現在中国の幼稚園教師の大半は専門学校卒と高校卒の教師からなる。大学卒の幼稚園教師は10%以下で、専門学校卒と高校卒の幼稚園教師との差が依然として大きい。

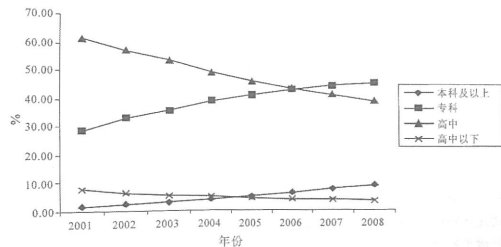


図3 2001-2008年中国の幼稚園における幼稚園教師の学歴変化  
出典) 庞丽娟、洪秀敏編『2011年中国就学前教育发展报告』(2012)  
北京師範大学出版社、p.12

注) 「本科及以上」は大学卒以上、「専科」は専門学校卒、「高中」は高校卒、「高中以下」は高校卒以下のことを指す。

## (3) 教員資格と教員の配置

中国において、幼稚園の教員には専任教師と保育員がある。それぞれ幼稚園教師資格(教育部発行)と保育員資格(国家人的資源・社会保障部発行)を有する。専任教師は幼児に教育活動を施すことに対し、保育員は保健等の面で専任教師の仕事を補助する役割を果たす。このように、中国政府は資格の種類から教育と保育を区別している。「幼稚園教職員配置水準」(2013)に基づき、全日制の場合、30人規模のクラスごとに2人の専任教師と1人の保育員が必要である(表2)。教員人数の保証は、近年中国政府が就学前教育の質を向上させるための重要な施策でもある。

る状況にあることを憂慮した講演を聞くことができた。日本でも幼児教育の重要性を主張したとしてしばしば言及されるヘックマンであるが、経済学者であるヘックマンの議論は、社会的・経済的に有用な人材を養成するためには、幼児期の投資が最も有効なリターンを生むというものである。彼が依拠したデータを提供したのが、D園で使われているスコアを開発したハイスコープという団体である。ハイスコープの開発したスコアはヘックマンのような考え方と無縁ではない。D園で見た記録は、確かに、他の園で見たような定型的な記録ではなく、子どもを多面的にかつ丁寧に評価していくものであると言えるだろう。しかし、同時に、社会的・経済的に有用な人材育成という目的に合致したものであるとも言えるのではないだろうか。もちろん、性急なコメントは避けるべきであろう。

しかし、子どもたちの記録について、成長を結果や水準から記録していくことをどう考えるのか、私たちはまさに岐路に立っているのではないか。中国の就学前教育機関への訪問は、私たち自身の課題についてあらためて振り返る契機を与えてくれるものとなったように思われる。(文責：小玉)

#### 4. おわりに -中国の就学前教育の概要-

最後に、今回の4園の視察報告の背景、基盤である、現在の中国の就学前教育について概要を説明する。

##### (1) 幼稚園の種類

中国における幼稚園とは、中国教育部が主管する3～6歳未満の幼児を対象とする就学前教育機関である。中国の幼稚園は大きく公立幼稚園と私立幼稚園に分類することができる。2015年、中国の公立幼稚園は幼稚園全体の44.6%で、私立幼稚園は55.4%を占める。

公立園の中にはまた、教育部園、集団園、部門園がある(図2)。教育部園は政府の教育部門によって設立され、幼稚園に関する一切の財産は教育部門に属し、すべての費用も政府から受け、園長は直接教育部門から任命される。訪問先のA園、B園とD園は教育部園に属する。また、集団園とは、村、区およびそれ以下の行政単位に設立され、園に関するすべての財産と費用は行政集団によって提供される園である。部門園は、ある政府部門、国家企業あるいは軍隊によって設立された園である。部門園はすべての人事権を持ち、すべての運営費用を負担する。私立幼稚園の場合、営利型私立幼稚園とサービス型私立幼稚園がある。2017年中央政府が公表した「営利型民間幼稚園に関する監督と管理の細則」によると、営利型私立幼稚園は幼稚園用地や税金を支払い、自ら園の学費レ

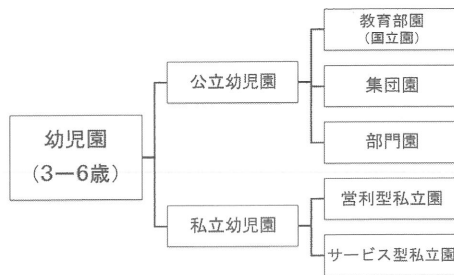


図2 中国における幼稚園の種類



### (3) 二つの記録：D園

最後に訪問した北京にあるD園でも、同様の子どもの記録冊子を見ることができた。D園もモデル園というステータスの園であるが、B園のような冊子を園で独自開発して発行してはなかった。画像17はD園で見せてもらった「幼児成長記録冊」の表紙であるが、これらは一般の人でも購入することが可能ということであった。

中身の形式は、子どものプロフィールや家族構成など、これまで見てきたものと同様の形式であった。こうして見ると、一人ひとりの子どもの記録は、中国の就学前教育において同じように実施されているのではないかと、という印象を持った。

ところが、園長先生によると、D園ではこれらの冊子は、実際にはほとんど利用していないということであった。では一人ひとりの記録はないのか、と質問したところ、別に記録がある、ということで示されたのが、次の画像18である。

左側の画像18-1は、プリントアウトされたもので、もともとパソコンにフォーマットがあり、子どもの写真を取り込めるようになっており、それぞれ写真で子どもの活動が記録され、どのようなことができているのか、その活動の記録が記入されているものとなっている。この中では、子どもの活動についての評価が二人の教師によって書かれてある。この記入には基準があり、その基準となっているのが右側のスコアガイドであるという。

画像18-2は、アメリカの教育団体であるハイスコアによって開発されたスコアガイドの表紙である。これが中国語に翻訳されたものも見せてもらったのだが、教師たちはそれぞれこのスコアガイドに従って、子どもの成長の段階を評価するという。

子どもの記録を親たちが作っている園もあれば、教師が作成する園もあり、パッケージ化されたものが流通しているのを知ることができたが、D園のように子どもの発達の記録を細かく記録していくのは、この園のみで見ることができた。これは、北京の最上級と位置づけられているモデル園だからなのかもしれないが、この記録は細やかな記録であると同時に、グローバル化の波がここに来ていることを示すもののように思われた。

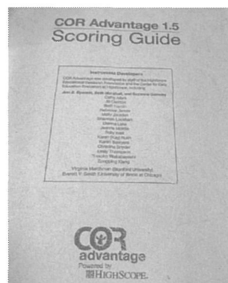
中国を訪問するわずか2か月前の8月末にイタリアのボローニャで開催されたヨーロッパ幼児教育学会（EECERA）に参加したのだが、そこで、大会基調講演をしたヴァンデンブロック氏（ゲント大学）の、世界がヘックマニゼーション（Heckmanization）とも言え



画像 17 D園記録冊子



画像 18-1 D園記録



画像 18-2 スコアガイド表紙

### 3. 何を記録し、何を評価するのか？

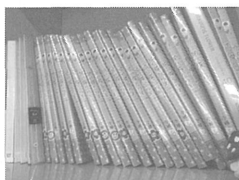
私たちは、それぞれの園で驚いたり感心したりと深い印象を受けてきたが、その中でも、4つの訪問先でそれぞれ、子どもたちの一人ひとりに関する記録は丁寧になされており、それらには共通点があり、また園による相違点もあったことは興味深いものであった。以下で、子どもたちの何が記録され、何が評価されるのかについて、尋ねてみたことを記述しておきたいと思う。

#### (1) 親が作る一人ひとりの記録：A園

最初に訪問した蘭州のA園で子どもの記録について尋ねたところ、教室の棚に並んでいた「幼児成長檔案」という名前のついた、一人ひとりの一年間の記録ファイルを見せてもらうことができた(画像15-1)。

これらはファイルを差し込むようになっていて、そこには、親が写真などを貼ったり記入したりして作成していくとのことであった。A園では日常的に親が教室に入室することが認められているわけではないが、定期的に親が入室してこれらを見たりすることができ、また、一年の終了時には親に渡されるものということであった。

画像15-2にあるように、子どもたちのプロフィールや成長の記録、家族の状況や日常的な姿、制作した作品の写真などファイルに差し込んでいくようにできていた。家族のほほ笑ましい様子や、子どものかわいらしい姿を捉えた写真など、家族によって作り方はまちまちであったが、手作り感があり、そこには、親たちがそれぞれ工夫して作成しているのを見ることができた。



画像 15-1 A園記録ファイル



画像 15-2 A園記録ファイル

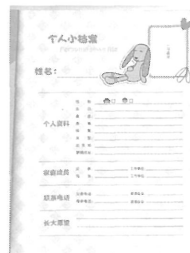
#### (2) 園が開発した記録冊子：B園

同じく蘭州のB園は、モデル園として目を見張るような施設や、工夫がなされている園であったが、A園のファイルに挟み込む形式とは異なり、独自の記録用の冊子「成長足跡」を開発して印刷作成し、そのフォーマットに合わせて記録していくように作成されている。(画像16)。これは、教師が記入するものであるとのことであった。

個人のプロフィールや家族構成を記述していく点は同様であったが、記録冊子を独自開発しているところが、モデル園たる所以であるとも言える印象を持った。



画像 16-1 B園記録冊子



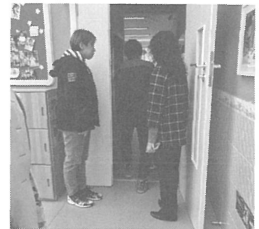
画像 16-2 B園記録冊子

とっていいほど窓があり、中が見える。これを当たり前だと思っていたことに気づかされた。

画像13-2は、D園の年長クラスのドアである。ドアノブが大人にしか届かない位置に取り付けられている。おそらく、子どもが自分でドアを



画像 13-1 A園ドア



画像 13-2 D園ドア

開けて保育室を出入りする必要がなく、教師が子どもたちの一斉的な移動を促すカリキュラムになっているということであろう（トイレは各クラスの保育室内部にある）。園庭や目的別の部屋などを、時間制で共有するシステムであるから、子どもの一斉的な集団行動をとりやすくすることの表れだと考えられる。

## (6) 音環境

画像14は、B園の園庭で子どもが音楽に合わせて遊ぶシーンだ。この間ずっと、アメリカの人気歌手のリズミカルな曲が大音量で流れていた。この場面は動画で撮影していたのだが、音楽に合わせ、お尻を振って踊っている子どもたちはいかにも自然で楽しそうだった。どこかでこの光景を見たことがあると考えてみると、中国に来て何回か遭遇した、あの、街角で集団になって音楽に合わせて踊る元気な老人たちの姿に思い至った。街角に、大きな音で、再生機からの音楽が流れているのだ（蘭州の大きな寺院



画像 14 B園園庭

の境内では、ラジカセから音楽を流し、マイクの大音量でのご自慢をする人たちの姿も見えた)。園庭にも、流れ続けている歌に合わせて巧みに踊りだす子どもがいれば、それをBGMで聞きながらアスレチックをやっている子どもたちがいる。おそらく、日本人が居合わせたら、大多数が「うるさい」と感じるだろうボリュームなのだが、これが中国の日常で、文化なのかもしれないと思った。

A園のクラスで、先生が全員に話しかけると、あるいは年長クラスの女兒が前に立ってお話をしていたときに、マイクを使っている光景も目にした。北京の園長にマイクを使うか尋ねると、「保育室では使いません」と言っていたので、園による意識の違いもあるのだろう。中国の京劇のにぎやかさを思っても、筆者には、音のボリュームに対する感覚は文化差も考慮して考える必要があるなど感じた。日本の音量感覚（子どもには静かに話しかけよう、など）を主張したところで意味はあるのかと考えさせられた。保育にユニバーサルデザインはあるのか？ という疑問を強くした。（文責：浜口）

張育慶（2013）中国における保育の現状 広島大学大学院教育学研究科紀要第二部 62、92.

J.Tobin, Y. Hsueh, M.Karasawa（2004）Preschool in Three Cultures Revisited, The University of Chicago Press.

絵本の読み聞かせ場面に、B園の図書室とC園の保育室で遭遇したが、両方とも大きなモニター画面を使っていた。また、「手はお膝」ではなく、「手は組んで後ろに」と指導する光景も見受けた。B園では、図書室以外にも、科学実験室、美術室、ゲーム室（子どもが作った各種のボードゲームや碁で遊ぶ）など目的別の部屋があった（画像10）。

保育室と隣接して、午睡用の部屋があった。A園とC園はベッド、B園は布団だった（画像11）。B園では、布団の消毒を、紫外線を含む照明灯で行うと聞いた。



画像 11-1 A園のベッド



画像 11-2 C園のベッド



画像 11-3 B園の寝室



画像 11-4 D園の二段ベッド

次はトイレ。J.Tobinらの日米中3国の幼児教育を比較した研究（2004）で、中国編の部分は、その多くのページをトイレに関する考察に割いていたことが記憶にあったため、興味深く見た。Tobinは、中国の幼児園でドアや仕切りもないトイレで男女の幼児たちが一緒に排せつをする光景を文化的社会的価値観の一象徴として非常に関心をもって記述し、彼の1回目の視察時（1980年代）と2回目（2000年代）の間に、その変化が見られたことを分析している。今回、私たちがC園とD園でトイレを見る機会があった（画像12）。回教幼稚園（C園）では男女は完全に隔てられているが、同性の間で仕切りはなかった（便器の色も多彩）。D園では、男女一緒だが、個人間に簡単な仕切りはある。今回の旅行中、鍵がないトイレに遭遇することは珍しくなく、間違えて使用中のところを開けてしまい、こちらが一方的に恐縮する場面もあった。一方で、われわれ日本人は、公衆浴場や混浴まであり得る文化を生きている。習慣の違いなのである。厳重なプライバシーを保持し、音消しまでする現代日本人のトイレ感覚も、ここ数十年の間に大きく変わってきたのである。



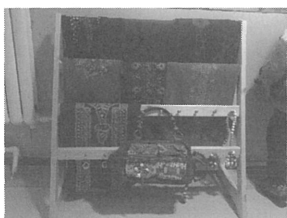
画像 12-1 C園トイレ



画像 12-2 D園トイレ

## （5）ドア

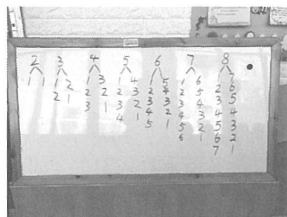
最初に訪問したA園で建物内を案内され、廊下を歩きながらどこか違和感を覚えた。子どもたちの気配が感じられなかったのだ。夕方訪問したので、もうあまり子どもがいないのかなと思ったほどだった。「ここが保育室です」と案内されて、ドアを押して中に入ると、子どもたちがたくさんいて、席に着いていた。降園間近で、どの保育室でも子どもたちが室内にいたということである。ドアには窓がなく、中が見えない（画像13-1）。ドアによって、保育室の外と内が隔絶されている印象があった。日本で、横に引く形の扉が多いのは、文化の反映でもあるし、狭い敷地ゆえの節約でもあろう。そして、扉には必ず



画像7 C園

識的に培うことがなおさら重要なかもしれない。一方、そのC園の廊下の一隅には、刺しゅうされた幾種類もの布が掛けてあり、その美しさは目を引いた。(画像7)。園長先生がその一枚を広げると、それは小さいサイズの民族衣装だった。エスニックな愛らしいバッグも傍に置いてあり、子どもたちがままごとで遊ぶのだそうだ。

B園の廊下には、教師手作りのさまざまなアイデア遊具が並んでいた。「手作り」のおもちゃを保育者たちが工夫して作ることを大事にしていると感じられた。廊下に、1の位の数字の加算を説明したホワイトボードが置かれていたのも目を引いた(画像8)。



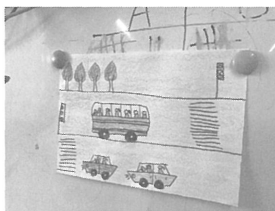
画像8 B園

#### (4) 保育室、図書室など

A園で一斉に絵を描いている光景に出会った。サインペンやクレヨンを使ってそれぞれの子どもが道路を走る車の絵を描いている(画像9)。壁には、実習生が描いたという1枚の絵が貼ってあり、「お手本」として意図的に掲示したのかどうか確認しなかったが、幼児がそちらをちらちらと見ながら描く様子があった。



画像9-1 A園

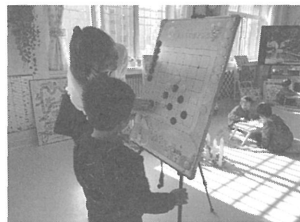


画像9-2 A園



画像9-3 A園

17時頃、4歳児クラスを訪問したときは全員が席に着いて食事をしていた。子どもたちは6人ほどのグループで着席し、金属製の容器から食べていた。18時降園なので、帰宅後また食事をするのか園長にお聞きすると、「これが夕食です」とのことで意外に感じた。幼稚園では、朝食から1日3食が支給されるという。週末だけ家族と一緒に食事をするのだろう。もともと80～90年代は寄宿制の託児施設も多かったという中国のことである。社会で子育てするという意識は、家庭に入る女性が徐々に増えている現代においても、やはり社会主義国として根付いていると言えるのかもしれない。



画像10 B園ゲーム室



画像3 A園通り抜け

こは地面が固くて、芝が育たない」と説明された。A園には、つる草がトンネルになった通り抜けが作られていて(画像3)、ちょうど紅葉の季節だったので、赤く色づいて魅力的なスペース作りをされていると共感した。しかし、対照的に自然の捉え方の違いを実感したのは、B園の園庭の壁面のデザインである(画像4)。壁一面が緑に覆われ(そこに、白い五線譜のラインが描かれている)、太い幹の木が並ぶ様子は、一見、自然豊かな落ち着いた雰囲気に映ったのだが、園長先生がそこに近づいて、「ここは緑が少ないのでこのようなものを作りました」と説明され、人工の装飾だと気づいた。「緑」というものへの価値付けが異なるのかもしれないと興味深かった。

B園の園庭では、実にさまざまな遊具(その多くは保育者の手作りだと聞いた)を使った運動遊びや、民族伝承の遊びなどが繰り返されていた。クラスごとに、外に出て遊ぶ時間が決まっており、交代で園庭を使っているとのことだった。C園でも見かけたが、男性保育者の姿があった。体育、運動的な遊びを担当することが多いそうである。



画像4 B園園庭壁面

### (3) 階段・廊下

C園の玄関前の階段を上り、最初の踊り場の曲がり口に、モニター画面(画像5)があった。厨房内の様子がリアルタイムに映し出されるとのことで、回教幼児園ではこうしなければならないという説明だった。次の階段を上ろうとすると、一段一段、すべての段の



画像5 C園モニター画面

側面に、漢字で生活習慣に関する標語を書いた長細い紙が貼ってあった(画像6)。「食前とトイレの後は手を洗おう」とか「姿勢を良くして座ろう」などと書いてある。文字は漢字しかないとはいえ、幼児にこのようなメッセージの出し方をするのかと新鮮に映った。子ども向けの文字使用は、保育室の中でも見受けられた。

廊下という空間にはさまざまな教育的配慮が感じられた。壁面構成としては、例えばA園では、季節の果物を運ぶ汽車が色模造紙や布などで構成された作品や、地元蘭州市近辺の名所旧跡や観光地などの写真が貼ってあった。回教幼児園のC園では、子どもたちが切り紙で作った天安門や中国国旗の作品が飾られていた。異文化の子どもが通う幼児園では、「国」による結合感や愛国心を幼児期から意



画像6 C園階段

西寧市の私立園は、回教徒家庭の子どものための園である。見た限り、かなり立派な設備の園であった。私たちが訪れた園は、中国において決して平均的なレベルの園とは言えないだろう。しかし逆に、中国が自信をもって示す、理想の幼稚園の形が示唆されているのだと考えることも可能である。

まず、各園の内部の様子を、物的環境に注目して紹介していく。その次に、中国の幼稚園の教育評価のあり方について、最後に中国の幼児教育の概要を論ずることとする。

## 2. 幼稚園の物的環境について

エントランス、園庭、建物内についてテーマ別に、各園の特徴や共通性等に関して論じていくが、便宜的に、4園を表1のようにA園～D園と呼び分けることとする。A園は師範大学附属の実験園で、大学のキャンパス内にある。大学職員が同じキャンパス内の宿舎（アパート）に退職後も住み続けることが多く、その子や孫が地域の子どもとして入園する割合が高いそうだ。B園は、A園と同じ蘭州市内のにぎやかな街のただ中に建つ1級幼稚園だが、設備が4園のうちで一番潤沢だった。C園は、今回訪問した場所としては最も西部の西寧市（それでも中国全体のほぼ中央部）に位置し、高層マンションが背景にそびえる下に建つ回教園である（園長は漢族出身の女性）。D園は北京の国立幼稚園。張（2014）によると、北京市は中国内陸部の経済発展途上の省に比べ、粗入園率、園児数対教師数、専門教師の比率、教育経費支出対GDPが格段に高く、中国国内の最高の水準にある。

### （1）エントランス、建物全体

どの園も3階建て（B園は4階建てだが、4階部分は研修等に使う大人のエリアだそうだ）である（画像1、2）。日本は幼稚園設置基準で園舎は原則2階建て以下であり、3階建てとなると小学校以上というイメージがある。子どもの絶対数が多いということも関係しているだろう。今回訪問した園の園児数は日本より多めで、A園：400名程度、B園：600名程度、D園：200名台だった。1979年に始まった一人っ子政策が緩和される方向に転換した今、園児は今後増え続けることが予想される。

建物は、B園以外、黄色、緑、オレンジ色などの明るい色彩に全体あるいは部分が塗られていた。これは日本と同様の傾向であるが、建物内部にもはっきりした色を使うように感じた。



画像1 A園建物入り口



画像2 C園建物

### （2）園庭

どの園にも広い園庭があり、地面は人工芝かゴムなどで覆われていた。A園だけ、地面が見える花壇のような部分を残していたが、なぜ大部分が人工芝なのかお聞きすると、「こ

# 中国(蘭州、西寧、北京)の4 幼稚園を訪問して — ユニバーサルな保育はあるのか —

浜口順子・小玉亮子・盧 中潔

## 1. はじめに

2017年10月30日～11月6日の1週間、私たちは中国を訪問した。主たる目的は、西北師範大学(蘭州市)と清華大学日本研究センター(北京市)で講演をすることだったが、幸運なことに、3都市4幼稚園を訪問する機会を得ることもできた。3都市とは、移動順に示すと、地図(図1)の中の:①蘭州市(甘肅省都)、②西寧市(青海省都)、③北京市である。



図1 中国における訪問地の位置

蘭州、西寧は、西方世界と結ばれるシルクロードの入り口近くに位置し、西北師範大学の先生方と話しても、また、街行く人の顔を見ても、漢族、満族、回族、ウイグル族など、多くの民族がそれぞれの文化を守りつつ共存する工夫と努力を重ねて生活しているのだと感じ、異文化性を普段あまり感じないで過ごしてられる日本という国は、世界の中でかえって特殊なのだと思った。特殊な国から来た私たちの目に、中国の保育が変わっていると映ったとしても、それはどちらが特殊なのかわからない、先入観をなるべく抑制して4園を見ようと考えた。

訪問先の幼稚園は、表1の4園である。中国では0～6歳の教育は「学前教育」と呼ばれ、現在は、一人っ子政策の結果である少子化現象と、都市集中による核家族化の中、0～2歳保育は祖父母に頼る傾向が強く、一人の子どもを両親2名とその両親4名で見守る「4-2-1育児」が進んでいるのだという。そのため、3歳児以上が通う幼稚園が現在の中国には多く、私たちが訪問した幼稚園もすべて3歳以上の教育・保育を、朝から夕方遅く(おおむね8:00～18:00)まで行うタイプの園だった。4園のうち、3園が「モデル園」で、「1級」とランク付けされている。「級」は主に幼稚園の環境、施設、教員の学歴などの客観的条件による基準で1～3級に分類される(張, 2013)。モデル園ではない

訪問日	園名	記号	幼稚園の種類	所在地
2017.10.31.	西北師範大学附属実験幼稚園	A	省1級公立園、省モデル園	蘭州市安寧区
2017.11.1.	蘭州市城関区保育院	B	省1級公立園、省モデル園	蘭州市城関区
2017.11.2.	西寧市柏童幼稚園	C	私立園	西寧市城東区
2017.11.6.	北京市朝陽区賽營幼稚園	D	北京市1級国立園、北京市モデル園	北京市朝陽区

表1 訪問園一覧

「4-2-1育児」が進んでいるのだという。そのため、3歳児以上が通う幼稚園が現在の中国には多く、私たちが訪問した幼稚園もすべて3歳以上の教育・保育を、朝から夕方遅く(おおむね8:00～18:00)まで行うタイプの園だった。4園のうち、3園が「モデル園」で、「1級」とランク付けされている。「級」は主に幼稚園の環境、施設、教員の学歴などの客観的条件による基準で1～3級に分類される(張, 2013)。モデル園ではない

浜口順子(お茶の水女子大学教授)

小玉亮子(お茶の水女子大学教授)

盧 中潔(お茶の水女子大学大学院博士後期課程学生)



# 子ども学の ひろば

お便り

POST

## ◇私の「カルチャー・いんふお」◇

今回は食についてです

まず映画「ある精肉店のはなし」(2013年 瀬戸内あや監督)の話題から。大阪の精肉店「肉の北出」で最近まで行われていた、牛を競り、牛舎で丁寧に肥育し、屠畜して精肉し店頭で販売、鍋を囲んで家族だんらん、なめされた皮は太鼓に張られ地域のお祭りで活躍するという、一頭が余す所なく使われるさまを描いた作品です。コンクリート造りの屠畜場で斧を牛の肩間に振り下ろし、床に倒れた牛を瞬く間に解体、枝肉にして店に運び込む男女たちの無駄のない動き。昔は子どもたちも手伝ったとか。店では枝肉を冷蔵庫で熟成させ、きれいに切り分けガラスケースに並べ、お客を迎えます。その肉の美しいこと。北出の年末は書き入れ時、お得意さんからの注文がつぎつぎと入り、箱にきれいに詰めた年末年始用のお肉を総出で配達します。仕事終わりの北出家ではすき焼きを頻張りながら、年末ボーナスが男女に配られます。

次は、伊香保温泉郷近くの「群馬県タイ瞑想村」です。東洋思想を学ぶ娘と、2泊3日の週末瞑想会に出かけました。だいたい色の袈裟姿のタイの僧侶が壇上の金色の仏様の前に座り、モニターを使って法話を展開します。導入の30分の短い瞑想から、3日目には1時間半に、全部で8回に及びました。良い瞑想には、静かな環境、健康、そのためのおいしい食事、十分な睡眠などが条件とされ、その通り、ここでは朝と昼においしい辛いタイ料理が供され、それにまず初めに手をつけるのは僧侶たちです。私たちは僧侶の食卓に食事を運び、ひざまずいて差し出し、合掌します。お返して僧侶たちは、瞑想と共に祝福の言葉をパーリ語で唱えてくれました。テレビも音楽もない3日間を送りました。(AK)

## ◇「ライフ×アート展 2017」報告書が できました！◇

ライフ×アート展は、お茶の水女子大学と附属校園が協働で行うアート実践展覧会です。ひとのライフ×生・生活・人生>に生まれるアートを、さまざまな角度からとらえ、展示し、表現する展覧会として始まりました。今年は初めて本格的な30ページのドキュメンテーション(展覧会カタログ)にチャレンジし、作品のみでなく、実践の過程やワークショップ、後日談も入っています。ご希望の方は、youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp にメールでお知らせください。限定50冊を、一冊1000円でお分けします。

## 日本保育学会第71回大会のお知らせ テーマ「保育の新時代へ」

会期：2018年5月12日(土)、13日(日)  
会場：宮城学院女子大学(宮城県仙台市)

あの東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故から8年目を迎えます。復興は残念ながら、いまだ道半ばです。しかしこの間、子どもたちの幸せと健やかな成長を守るために、保育関係者がどれだけ強い思いで奮闘してきたかを、皆さんで語り合い確かめ合い、未来につなげてまいりたいと考え、このテーマを選びました。

(第71回大会第1号通信 実行委員長挨拶より)

## 編集後記

私たちの職場では今、保育を語りあうことや、語りあうように記録を書きあうことを大切にしている。カチットした文章を作成しなければならない際にも、“語り合い”のニュアンスが消えないようにしたいと考えている。また、日々保育者たちが紡ぎ出す言葉の中には、保育の本質にかかわるようなこともいろいろ出てくる。

「保育の現場では、“私”に代わられる人がたくさんいる、ということがありがたい。一人の人の考え/価値観/時間の流れ（だけでやらなければならないもの）ではないし、疲れてしまったときや自分にできないことは、できる人に託すこともできる」『「ここは大丈夫・この人は大丈夫、自分のことをわかってくれ

る。わかってはくれているけれど、わかろうとしてくれている。どんな自分を出しても大丈夫』という『ありのまま（＝非・変化）』を認められる実感が、『“大丈夫”が増えて自ら次の時へと移っていく経験（＝変化）』につながっていく」等々。

変わりゆく時代に、「育ち」を「保つ」という保育の字義通りの役割を変えてはならないだろう。そのために、「育ち」の基本となる、子ども一人ひとりの安心感、“大丈夫”が増えていく経験の担保が必須ではないか。私たちにし得ることとして、“語りあうように記録を書きあう”ようなささやかな試みではあるけれど、“語りあえる日常を手放さない”ということが意外と大事であるように思う。（KT）

## 次号予告 幼児の教育 夏号 2018年7月刊行予定

新企画も好評！ 充実した内容でお届けします。

- ◇ 保育の「根本考察」にチャレンジ！ 6  
幼児教育の要領・指針が変わるとき
- ◇ タイの子どもたち支援団体「マレットファン」の活動報告 松尾久美氏
- ◇ 「ナーサリーこぼれ話」 お茶の水女子大学附属いずみナーサリー

※タイトル内容が変更になる場合もあります。

## 幼児の教育 春号 第117巻 第2号

平成30年4月1日発行

編集発行人/浜口順子

編集担当/田中恭子

発行所/お茶の水女子大学

『幼児の教育』編集委員会

〒112-8610

東京都文京区大塚2-1-1

お茶の水女子大学

浜口順子研究室内

youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

発売所/株式会社フレーベル館

電話：03-5395-6604（編集）

振替/00190-2-19640

印刷所/図書印刷株式会社

定価/本体880円＋税

◎お茶の水女子大学『幼児の教育』編集委員会

2018 Printed in Japan 無断転載禁止

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

編集委員/上坂元絵里

菊地知子

松島のり子

宮里暁美

お茶大3園合同研究会

（附属幼稚園、

いずみナーサリー、

文京区立お茶大こども園）

編集協力/フレーベル館

●ご購入のお問い合わせは、フレーベル館までお願いします。03-5395-6613（営業）●

# フレーベル館 110 周年企画

## 倉橋惣三を旅する 小さな太陽

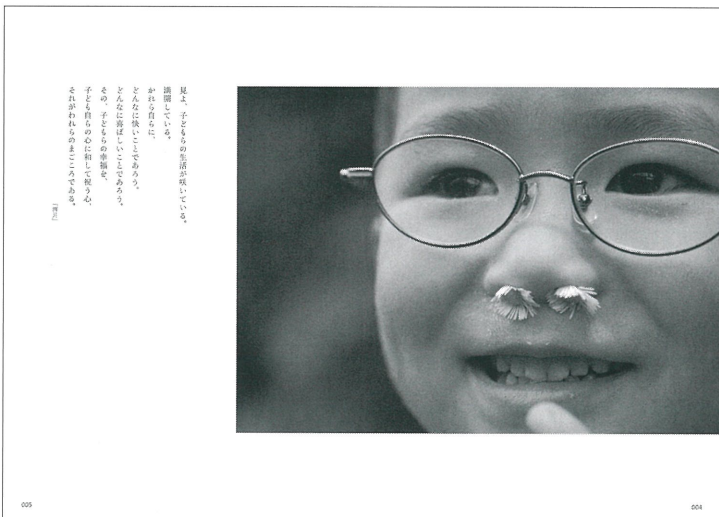
倉橋惣三・言葉 小西貴士・写真  
大豆生田啓友・選

今も昔も変わらず子どもたちは「小さな太陽」であり、私たちの「希望」—。『育ての心』他の倉橋惣三の詩情豊かな子ども観を、『保育ナビ』表紙でおなじみの小西貴士氏の写真でイメージ化しています。ゆっくりページをめくりたい1冊です。



全 48 ページ 26×18cm

定価 本体 1,300 円+税 109-67 ISBN978-4-577-81429-1



子どもの健気な姿や、ユーモア溢れる姿が立ち現れると、ぷっと吹き出してしまう、「ま、いいか」と思えることもあるものです。ちょっと見方を変えてみると、私たちの毎日は、彼らに元気づけられていることに気づかされるのです。

大豆生田啓友  
解説より

「小さな太陽」— それは、私たちの希望なのです。

# フレーベル館 110 周年企画

## 倉橋惣三を旅する 21世紀型 保育の探求

大豆生田啓友・編著

現代の保育実践や対談を通して倉橋の保育論に今一度立ち返り、日本の21世紀型保育を探求する一。新しい時代を切り開く、保育の新と真を見据えた実践集です。月刊保育雑誌『保育ナビ』で連載している大豆生田啓友先生の最新刊。平成30年から施行される保育の3つの法令を実施する際のヒントにもなる1冊です。

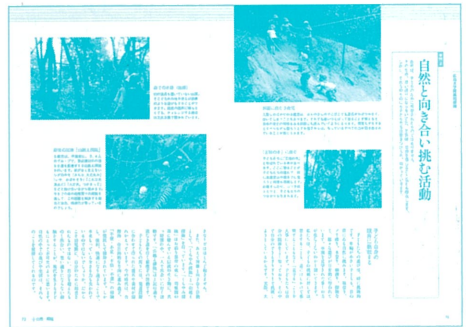


全 152 ページ 26×18cm  
定価 本体 2,600 円＋税  
109-66 ISBN978-4-577-81428-4

## 保育の未来を探るための対談と30の事例



秋田喜代美先生(東京大学大学院)と大豆生田啓友先生(玉川大学)の対談。乳幼児期だけでなく、学校教育全体を含めた世界的な動向と、我が国の保育の新たな方向性について探ります。



倉橋の8つのキーワード「心もち」「生活・遊び」「誘導保育」「自然・環境」「親・地域」「保育者」「小学校との接続」「多様な子ども」から、30の実践事例を紹介しています。